Pioneer sound.vision.soul

MDLP

MiniDisc

MD/CD/チューナー・WMA/MP3/WAV対応・
DSPメインユニット

FH-P099MD

取扱説明書

目次 4ページ

carrozzeria

安全のために必ずお守りください

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

■ 表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

警告	この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
注意	この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

■ お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

注意	このような絵表示は、注意（警告を含む）しなければならない内容です。
禁止	このような絵表示は、禁止（やってはいけないこと）の内容です。
必ず行う	このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

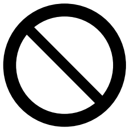
安全上のご注意 （別冊の「安全上のご注意」もお読みください。）

⚠ 警告

[異常時の処置]

故障のまま使用しない

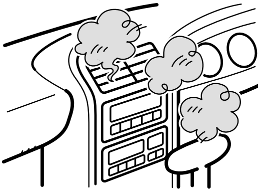


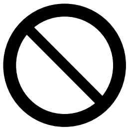


禁止

画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない





禁止

万一、煙が出る・変なにおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起こりましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する





必ず行う

ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

目次

C O N T E N T S

ラジオ

ラジオを聞く

マルチCD

マルチCDでCDを聞く

(別売のマルチCDを組み合わせたときのみ)

すぐに使いたいときは、
ここをお読みください。

すぐ使えます
ここだけ読めば

目次

テレビ

テレビを見る
(別売のテレビを組み合わせたときのみ)

DVD

DVDを聞く
(別売のDVDを組み合わせたときのみ)

音の調節

音を調節する

CONTENTS

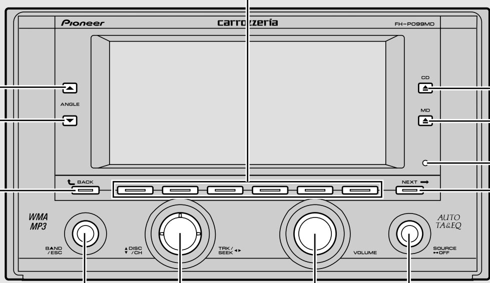
便利な機能と初期設定

その他 (付録)

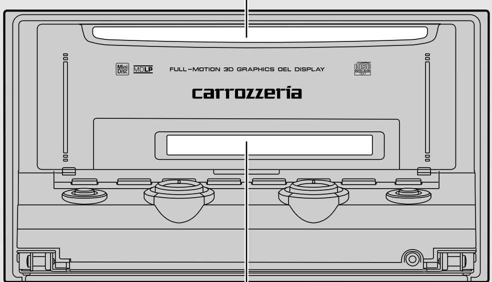
すぐに使いたいときは、
ここをお読みください。 ●●●● すぐ使えます ここだけ読めば

はじめに 1 各部のなまえ

本体 (クローズ時)



本体 (オープン時)



セレクションキーについて

「セレクションキー」は、ディスプレイの表示に合わせて機能が変わるボタンです。選んでいるモードによって、操作できる機能が異なります。

(☞ はじめに❼ 15 ページ)

リモコン

本体と同じなまえのボタンは、本体のボタンと同じ働きをします。

オーディオ
AUDIO ボタン

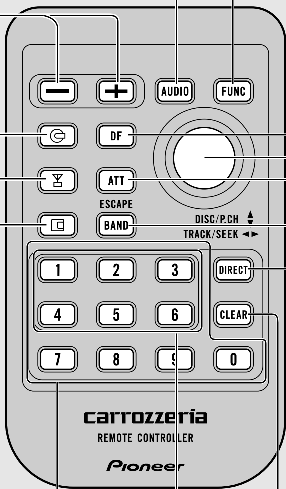
ファンクション
FUNCTION ボタン

ボリューム
VOLUME

CD ボタン
押すごとにソースが次のように切り換わります。
マルチ DVD / 1 枚型 DVD
→ 内蔵 CD→ マルチ CD
→ 電源 OFF
→ マルチ DVD / 1 枚型 DVD に戻る

チューナーボタン
押すごとにソースが次のように切り換わります。
ラジオ（FM/AM)→ テレビ
→ 電源 OFF→ ラジオに戻る

MD ボタン
押すごとにソースが次のように切り換わります。
内蔵 MD→AUX (外部機器)
→ 電源 OFF→ 内蔵 MD に戻る



ジョイスティック
上下左右に操作することで、本体の ▲/▼/◀/▶ ボタンと同じ働きをします。

ダイレクトファンクション
DF ボタン

アッテネーター
ATT ボタン
(☞ **便利な機能❶ 94 ページ**)
押すごとにアッテネーターが ON/OFF します。アッテネーターが ON のときは、音量が約 1/10 になります。

バンド
BAND ボタン

ダイレクト
DIRECT ボタン

クリア
CLEAR ボタン

数字ボタン

1〜6 ボタン
(☞ **ラジオ❶ 52 ページ**)
(☞ **マルチ CD❷ 57 ページ**)

DF ボタンについて

DFボタンを押すと、ソースごとにあらかじめ記憶されている機能を直接操作することができます。内蔵CD・内蔵MD・マルチCD・DVDでポーズ、ラジオでBSM、テレビでBSSMを操作することができます。
(☞ **便利な機能⑳ 108 ページ**)

数字、DIRECT、CLEAR ボタンについて

数字、DIRECT、CLEARボタンを操作すると、ダイレクトサーチ機能を使うことができます。

(☞ **内蔵 CD❶ 30 ページ**)
(☞ **WMA/MP3/WAV❶ 38 ページ**)
(☞ **内蔵 MD❶ 46 ページ**)
(☞ **マルチ CD❶ 56 ページ**)

FUNCTION ボタンについて

FUNCTION ボタンを押すと、ファンクションモードを切り換えることができます。
(☞ **内蔵 CD❷ 31 ページ**)
(☞ **WMA/MP3/WAV❷ 39 ページ**)
(☞ **内蔵 MD❷ 47 ページ**)
(☞ **ラジオ❸ 53 ページ**)
(☞ **マルチ CD❸ 57 ページ**)

AUDIO ボタンについて

AUDIOボタンを押すと、オーディオ調節モードを切り換えることができます。
(☞ **音の調節❸ 74 ページ**)

メモ

- 接続していないソースには切り換わりません。
- ディスクがセットされていないときは、そのソースには切り換わりません。
- AUX（外部機器）の設定（☞ **便利な機能⑮ 106 ページ**）をONにしないと、AUX には切り換わりません。

本機の特長

本機は、音楽CD、WMA/MP3/WAVの再生に対応しています。

CD再生

音楽用のCD/CD-R/CD-RWを再生することができます。

WMA/MP3/WAV再生

WMA/MP3/WAVファイルが記録されたCD-R/CD-RW/CD-ROMの再生に対応しています。ISO9660のレベル1、レベル2、および拡張フォーマット（Joliet、Romeo）に準拠して記録されたディスクが再生可能です。**(☞その他❷ 112ページ)**

WMAについて

外装箱に印刷された、Windows Media™のロゴは、本機がWMAデータの再生に対応していることを示しています。

WMAとは、「Windows Media Audio」の略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMAデータは、Windows Media Player Ver.7以降を使用してエンコードすることができます。

Microsoft、Windows Media、Windowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

メモ

- WMAファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
- WMAファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。

MP3について

本機を提供する場合、非営利目的の個人向けライセンスのみが提供されます。下記放送で、本機を使うライセンスを提供したり、いかなる形式にせよ、使う権利を意味するものではありません。下記放送で本機を使用する場合は、それぞれ固有のライセンスが必要となります。詳細は、インターネット上のホームページhttp://www.mp3licensing.comをご覧ください。

- 営業目的、すなわち利益の発生するリアルタイム放送（地上波放送、衛星放送、ケーブルテレビを始めとするメディア）、インターネットを使った放送やデータ転送、イントラネットを始めとするネットワーク、あるいはペイオーディオやオンデマンド方式のオーディオといった電子的放送番組の配布システムなど。

「CD TEXT」について

「CD TEXT」は、CDのタイトル/歌手名/曲名などの文字情報が収録されたCDです。ディスクタイトル面に下記マークの付いているCDは、「CD TEXT」です。（下記マークが付いていない「CD TEXT」もあります。）

タイトル表示について

本機はカナやアルファベットなどの表示だけではなく、ひらがなや漢字などの表示にも対応しています。「CD TEXT」に漢字などの文字情報が収録されている場合でも、本機ではそのまま表示することができます。

50枚型マルチCDプレーヤーの使用について

本機では、50枚型マルチCDプレーヤーの取扱説明書に記載されている50枚型マルチCDプレーヤー特有の機能を操作することはできません。本機で操作できるのは、本書に記載されている機能のみです。また、ディスクリストモードには切り換わりません。

長時間録音されたMDの再生について

本機は、MDLPに対応しています。長時間録音されているMDも再生することができます。

MDLPについて

MDLPとは、今までお使いになっているMDで、従来の録音できる時間より長く（2倍、4倍の時間）録音することができる圧縮方式です。

MDグループディスク再生について

本機は、MDグループ機能の再生に対応しています。MDに収録されている曲をグループとして登録したディスク (グループディスク) を再生している場合、グループ名を表示したり、お好みのグループだけを再生したりすることができます。

バッテリー上がりを防ぐために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。

また、本機が電源OFFのときでも、車のエンジンを止めた状態で、長時間、車のイグニッションスイッチをON (またはACC) にしないでください。バッテリーが上がる恐れがあります。

デモモードについて

本機には、リバースモードとフィーチャーデモの2つのデモモードがあります。

リバースモードについて

リバースモードは、各ソースを聞いているときに約30秒間操作しないと画面が自動的に反転する機能です。反転は、10秒間隔で行われます。

リバースモードを解除したいときは、車のイグニッションスイッチがON (またはACC) のときに本機の電源をOFFにして5のボタンを押してください。もう一度押すと、ONになります。

フィーチャーデモについて

フィーチャーデモは、本機が電源OFFのときに、各ソースや本機の機能 (エンタテインメント、SFCなど) の画面を表示して紹介する機能です。

フィーチャーデモを解除したいときは、フィーチャーデモが表示されているときに6のボタンを押してください。もう一度押すと、デモが始まります。

車のエンジンを止めた状態で、フィーチャーデモを長時間表示すると、バッテリー上がりの原因になります。

メモ

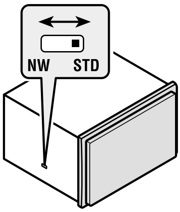
● 赤リード線（アクセサリー電源) は、常に車のバッテリーから電源を供給する電源回路には接続しないでください。車のイグニッションスイッチと本機の電源をOFFにしても、フィーチャーデモが表示され、バッテリー上がりの原因になります。

はじめに 3 DSPモードを切り換える

本機には、3-way ネットワークモード (NW) とスタンダードモード (STD) の2つの動作モードがあります。お好みに合わせて、モードを切り換えることができます。初期設定は、スタンダードモードになっています。

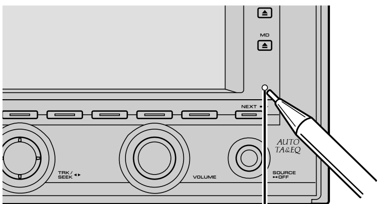
1 DSP モードを切り換える

ペン先などで本機の側面にあるスイッチを切り換える



2 本機をリセットする

ペン先などでリセットボタンを押す



メモ

- リセットボタンを押すと、本機のマイコンが初期状態に戻ります。**(☞ はじめに❹)**
- リセットボタンを押すことで、設定したDSPモードが有効になります。

はじめに 4 本機のリセットについて

リセット

本機を初期設定状態に戻すことができます。

リセットボタンについて

リセットボタンを押すと、本機のマイコンが初期設定状態 (ご購入直後の状態) に戻ります。次のようなときに、リセットボタンを押してください。

- 接続が終わったあと
- 本機が正しく動作しないとき
- ディスプレイが正しく表示されないとき

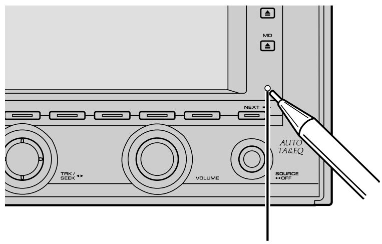
リセットボタンを押すと、本機の記憶 (時計やラジオのプリセットなど) が消去されます。もう一度、セットしなおしてください。

ご注意

本機をリセットする前に、フロントパネルを閉めておいてください。(ディスクを挿入口に差したままにしないでください。)

1 本機をリセットする

ペン先などでリセットボタンを押す



メモ

- フロントパネルを開けたままリセットすると、自動的にフロントパネルが閉じます。

はじめに 5

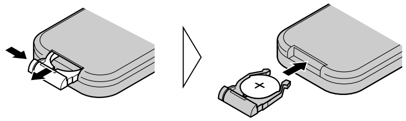
リモコンの準備

付属のリモコンを使うための準備です。

リモコンに電池を入れる

リモコンを裏返し、電池ホルダーを取り出して、リチウム電池 (CR2025) を ⊕ 側を上にしてセットします。

初めてお使いになるときは、電池ホルダー部から出ているフィルムを引き抜いてください。電池があらかじめセットされていますので、すぐにお使いいただくことができます。



リモコンの操作可能範囲が狭くなったときは、新しい電池と交換してください。

リモコンの取り扱い上のご注意

- リモコンを直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障する恐れがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- 本体に直射日光が当たっていると、リモコンを操作できないときがあります。このようなときは、本体にリモコンを近づけて操作してください。
- 付属の電池は充電できません。
- リモコンを長い間使わないときは、電池を取り出してください。取り出した電池は、幼児の手の届かないところに保管してください。
- 電池の液もれが起こったときは、内部に付いた液をよくふき取ってから、新しい電池と入れ換えてください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示 (条例) に従って処理してください。

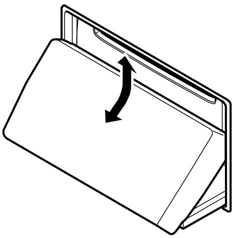
はじめに 6 フロントパネルの角度を調節する

フロントパネルの角度を調節して、ディスプレイを見やすくしたり、操作をしやすくすることができます。

1 フロントパネルの角度を調節する

ANGLE (OPEN/CLOSE) ボタンを押す

OPEN　：ボタンを押すごとにフロントパネルが傾きます。2秒以上押すと、全開します。
CLOSE：ボタンを押すごとにフロントパネルが立ち上がります。2秒以上押すと、完全に閉まります。



ご注意

- 角度の調節は、手動で行わないでください。フロントパネルに強い力が加わると、故障することがあります。
- ディスクを挿入口に差したままにしないでください。フロントパネルが閉められなくなります。

メモ

- フロントパネルの角度は、12段階に調節することができます。
- 車のACC (アクセサリー) 電源をOFFにすると、約6秒後にフロントパネルが閉まります。もう一度ONにすると、元の位置に戻ります。(ただし、安全のために、全開位置には戻りません。)

⚠ 注意



注意

- フロントパネルの開閉動作中は、指などを挟まないようにご注意ください。
- フロントパネルを全開にしたまま、走行しないでください。急ブレーキ時にフロントパネルに体が当たったりして、思わぬケガをする恐れがあります。

セレクションキーの操作について

この説明書では、ファンクションモードやオーディオ調節モードの操作は、「セレクションキー」を基本として説明しています。

セレクションキーについて

セレクションキーは、ディスプレイの表示に合わせて機能が変わるボタンです。操作できる機能は、選んでいるモードによって異なります。また“ ► ”表示は、セレクションキーに現在表示されている機能とは別の機能があることをあらわしています。“ ► ”が表示されているときにNEXTボタンを押すと、機能を切り換えることができます。

機能名　►



セレクションキー　NEXTボタン

この説明書では、表示される機能名をセレクションキーのボタン名として解説しています。（例えば、“ FUNC ”と表示されているセレクションキーは、FUNCボタンと言います。）

基本画面について

CDを聞いているときなどの基本画面には、FORM 1、FORM 2、およびFORM 3の3種類があります。**(☞ 便利な機能❺ 98ページ)**

FORM 1



FORM 2



FORM 3



この説明書では、FORM 1を例に説明しています。このため、FORM 2やFORM 3を選んでいる場合、セレクションキーの表示が一部異なることがあります。

はじめに 7 セレクションキーの操作について (つづき)

BANDボタンとBACKボタンの違いについて

■ BANDボタン

選んでいるモードに関係なく、一度で基本画面に戻ることができます。(ラジオやテレビでは、モードを選んでいないときにBANDボタンを押すと、バンドが切り換わります。)

■ BACKボタン

選んでいるモードを解除し、1つ前のモード(画面) に戻ることができます。

階層表示について

モードによっては、セレクションキーを押すことでより詳細な機能を選ぶ画面に進めます。表示されている画面が基本画面から数えていくつ目の階層かは、数字とバーでわかります。

(例：内蔵MDで、FUNCボタン、T.LISTボタンの順に押したとき)



階層表示

ガイド表示について

この説明書では、各モードの操作についてセレクションキーを基本として説明しています。ただし、ON/OFFなど▲/▼/◄/►ボタンでも操作できる機能があります。こういった機能では、ガイド表示が出ます。



ガイド表示の例	操作方法
	▲/▼/◄/►ボタンで操作できます。
	▲または▼ボタンで機能をON/OFFできます。
	◄または►ボタンで項目を選ぶことができます。

セレクションキーの操作 (例：内蔵 CD のランダムプレイ)

1 “ FUNC ” を表示させる

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



↓



↓



に戻る

2 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

ファンクションモードに切り換わり、セレクションキーの表示も次のように切り換わります。



3 ランダムプレイ設定モードにする

RDM ボタンを押す

ランダムプレイ設定モードに切り換わります。



4 ランダムプレイを ON にする

RDM ボタンを押す

ボタンを押すごとに ON/OFF します。



ランダム再生が ON になると、ランプが点灯します。

5 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

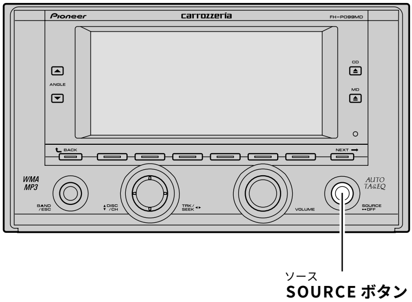
ファンクションモードが解除されます。

メモ

- セレクションキーは、選んだソースやモードによって、切り換わる機能や表示の数が異なります。
- セレクションキーの表示が出ていないボタンには機能がありません。この場合、そのボタンでは操作することはできません。
- ランダムプレイ設定モードでは、▲/▼ ボタンでもランダムプレイを ON/OFF することができます。

ここだけで1 聞きたいソース (音源) を選ぶ ● 電源を切る

聞きたいソース (音源) に切り換えることができます。



1 ソースを切り換える

SOURCE ボタンを押す

SOURCEボタンを押すごとに次のように切り換わります。

ラジオ (FM/AM)
↓
テレビ (別売)
↓
マルチDVD/1枚型DVD (別売)
↓
内蔵CD
↓
マルチCD (別売)
↓
内蔵MD
↓
External 1
(エクスターナルユニット1) (別売)
↓
External 2
(エクスターナルユニット2) (別売)
↓
AUX (外部機器) (別売)
↓
ラジオに戻る

2 電源を切る

SOURCE ボタンを 1 秒以上押す

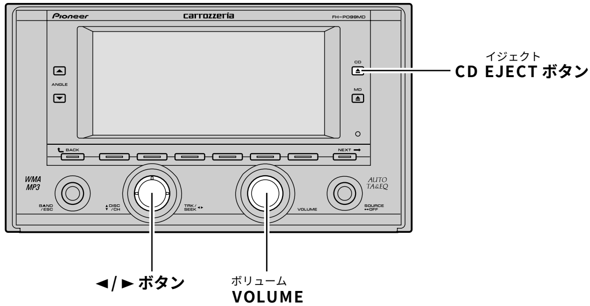
本機の電源が切れます。

メモ

- 接続していないソースには切り換わりません。
- ディスクがセットされていないときは、そのソースには切り換わりません。
- AUX（外部機器）の設定 **(☞ 便利な機能⑮ 106 ページ)** を ON にしないと、AUX には切り換わりません。
- 本機の青リード線（オートアンテナ）に車側のオートアンテナコントロール端子を接続している場合、ソースをラジオにすると車に装備されているオートアンテナがのびます。
- External（エクスターナルユニット）とは、本機がソースとして対応していないパイオニア製品（将来発売される製品など）の基本的な機能をコントロールできるように用意している特別なソースです。本機では、2 台の External（エクスターナルユニット）をコントロールすることができますが、External1、External2 のどちらに切り換えても " External " が表示されます。2 台の External（エクスターナルユニット）を接続した場合、本機によって、External1、External2 が自動的に設定されます。

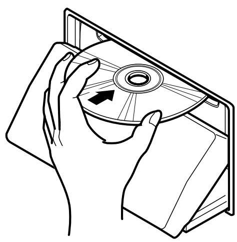
ここだけで2 内蔵CDのふだんの操作 ● CDを再生する ● 曲を選ぶ

ここだけの操作で、CDを聞くことができます。



1 CDを再生する

CD EJECTボタンを押して、フロントパネルを開き、CDをCD挿入口に差し込む



タイトル面を上にして差し込みます。

ご注意

CDシングル(8 cm CD)もアダプターなしでセットできます。アダプターは絶対に使用しないでください。

↓

自動的にフロントパネルが閉まり、CDの再生が始まります。

2 聞きたい曲を選ぶ(または早送り/早戻し)

◄または►ボタンを押す

►：次の曲を選ぶとき(または早送り)
◄：前の曲を選ぶとき(または早戻し)

選曲と早送り/早戻しの使い分け	
聞きたい曲の選択	0.5秒未満
曲の早送り/早戻し※1	0.5秒以上押し続けている間

※1 選曲方法をラフサーチに設定した場合は、10曲飛びに選曲します。
(☞ 内蔵CD❾ 35ページ)

⚠ 注意



フロントパネルの開閉動作中は、指などを挟まないようにご注意ください。

曲番号



再生経過時間

3 音量を調節する

VOLUMEを押す

押すと手前に出てきます。

●もう一度押すと、元に戻ります。

↓

VOLUMEを回す

右回し：大きくするとき
左回し：小さくするとき

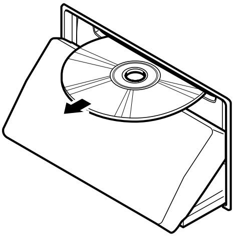
●音量は、0～40の範囲で調節できます。

●約4秒間、音量が表示されます。

4 CDを取り出して CD再生をやめる

CD EJECTボタンを押す

自動的にフロントパネルが開きCDが出てきます。



●出てきたCDはすぐに取り出して、保管してください。

↓

CD EJECTボタンを押して、フロントパネルを閉める

フロントパネルが閉まります。

●CD挿入口にゴミやホコリが入るのを防ぐため、フロントパネルを閉めてください。

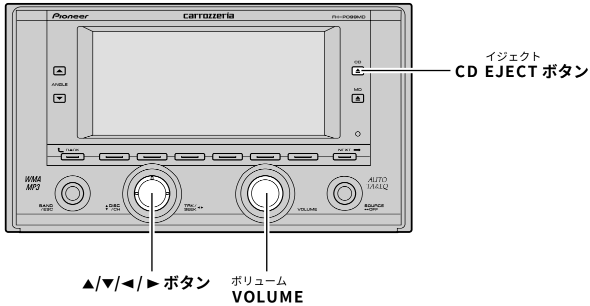
メ モ

● CDをセットしたまま電源をOFFにしたり、他のソース（ラジオやMDなど）に切り換えることもできます。（☞ **ここだけで❶ 18ページ**）
● CD挿入口には、CD以外のものを絶対に入れないでください。故障の原因となります。
● ディスクを挿入すると、ファイル形式を読みとる間、“ Format read ” と表示されます。

ここだけで 3

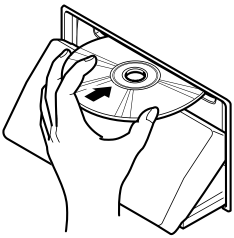
WMA/MP3/WAVのふだんの操作 ● CD-ROMを再生する

ここだけの操作で、WMA/MP3/WAVを聞くことができます。再生できるWMA/MP3/WAVについては (☞ その他❷ 112ページ)



1 CD-ROMを再生する

CD EJECTボタンを押して、フロントパネルを開き、CD-ROMをCD挿入口に差し込む



タイトル面を上にして差し込みます。

↓

自動的にフロントパネルが閉まり、CD-ROMの再生が始まります。

2 聞きたいフォルダーを選ぶ

▲または▼ボタンを押す

▲：次のフォルダーを選ぶとき
▼：前のフォルダーを選ぶとき

● BANDボタンを2秒以上押すと、フォルダー01 (ROOT) に戻ります。ただし、フォルダー01 (ROOT) にファイルがない場合は、次のフォルダーから再生が始まります。

3 聞きたい曲を選ぶ(または早送り/早戻し)

◄または►ボタンを押す

►：次の曲を選ぶとき (または早送り)
◄：前の曲を選ぶとき (または早戻し)

選曲と早送り/早戻しの使い分け	
聞きたい曲の選択	0.5秒未満
曲の早送り/早戻し ※1	0.5秒以上押し続けている間

● WMA/MP3/WAVファイルを早送り/早戻ししているときは、音声は出力されません。

※1 選曲方法をラフサーチに設定した場合は、10曲飛びに選曲します。
(☞ WMA/MP3/WAV❾ 43ページ)

⚠ 注意



注意

フロントパネルの開閉動作中は、指などを挟まないようにご注意ください。



4 音量を調節する

VOLUMEを押す

押すと手前に出てきます。

●もう一度押すと、元に戻ります。

↓

VOLUMEを回す

右回し：大きくするとき
左回し：小さくするとき

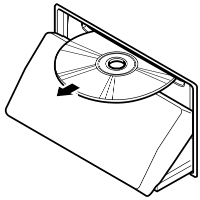
●音量は、0～40の範囲で調節できます。

●約4秒間、音量が表示されます。

5 CD-ROMを取り出して CD-ROM再生をやめる

CD EJECTボタンを押す

自動的にフロントパネルが開き、CD-ROMが出てきます。



●出てきたCD-ROMはすぐに取り出して、保管してください。

↓

CD EJECTボタンを押して、フロントパネルを閉める

フロントパネルが閉まります。

メモ

● CD-ROMをセットしたまま電源をOFFにしたり、他のソース (ラジオやマルチCDなど) に切り換えることもできます。 (☞ **ここだけで❶ 18ページ**)

● CD挿入口には、CD以外のものを絶対に入れないでください。故障の原因となります。

● ディスクを挿入すると、ファイル形式を読みとる間、“ Format read ” と表示されます。

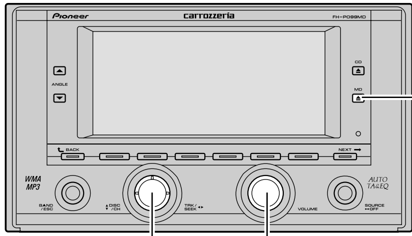
● VBR (可変ビットレート) で録音されたファイルを早送り/早戻しすると、再生経過時間が正しく表示されないことがあります。

WMA/MP3/WAVと音楽データの切り換えについて

● WMA/MP3/WAVファイルと音楽データが混在しているディスクの場合、BANDボタンを押して、WMA/MP3/WAVファイルと音楽データを切り換えて再生することができます。WMA/MP3/WAVファイルと音楽データを切り換えた場合、再生は一番めの曲から始まります。

ここだけで4 内蔵 MD のふだんの操作 ● MD を再生する ● グループを選ぶ

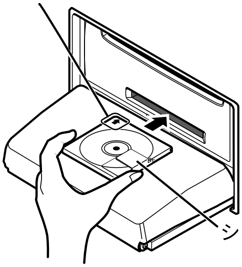
ここだけの操作で、MDを聞くことができます。



1 MD を再生する

MD EJECT ボタンを押して、フロントパネルを開き、MD を MD 挿入口に差し込む

矢印の向きに差し込みます。



MDのラベル面を上にして差し込みます。

確認
MDのシャッターが閉まっていることを確認してから差し込んでください。

↓

自動的にフロントパネルが閉まり、MDの再生が始まります。

2 聞きたいグループを選ぶ(グループディスクの場合)

▲ または ▼ ボタンを押す

▲：次のグループを選ぶとき
▼：前のグループを選ぶとき

3 聞きたい曲を選ぶ(または早送り/早戻し)

◄ または ► ボタンを押す

►：次の曲を選ぶとき (または早送り)
◄：前の曲を選ぶとき (または早戻し)

選曲と早送り/早戻しの使い分け	
聞きたい曲の選択	0.5秒未満
曲の早送り/早戻し	0.5秒以上押し続けている間

メモ

● 2 倍長時間録音の MD 再生時は “ ×2 ” が、4 倍長時間録音の MD 再生時は “ ×4 ” が表示されます。



4 音量を調節する

VOLUMEを押す

押すと手前に出てきます。

●もう一度押すと、元に戻ります。

↓

VOLUMEを回す

右回し：大きくするとき
左回し：小さくするとき

●音量は、0～40の範囲で調節できます。

●約4秒間、音量が表示されます。

⚠ 注意

⚠ 注意

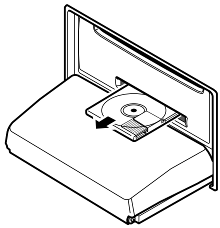
●フロントパネルの開閉動作中は、指などを挟まないようにご注意ください。

●フロントパネルを全開にしたまま、走行しないでください。急ブレーキ時にフロントパネルに体が当たったりして、思わぬケガをする恐れがあります。

5 MDを取り出して MD再生をやめる

MD EJECTボタンを押す

自動的にフロントパネルが開き、MDが出てきます。



●出てきたMDはすぐに取り出して、保管してください。

↓

MD EJECTボタンを押して、フロントパネルを閉める

フロントパネルが閉まります。

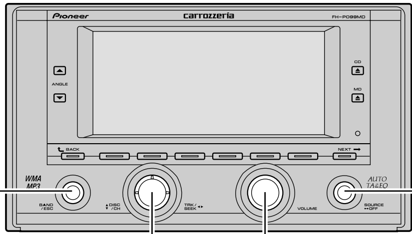
メモ

● MDをセットしたまま電源をOFFにしたり、他のソース (ラジオやCDなど) に切り換えることもできます。(☞ ここだけで❶ 18ページ)

● MD挿入口には、MD以外のものを絶対に入れないでください。故障の原因となります。

ここだけで5 ラジオのふだんの操作 ● バンドを選ぶ ● 放送局を選ぶ

ここだけの操作で、ラジオを聞くことができます。



1 ソースをラジオにする

SOURCE ボタンを押す

ラジオを受信します。

●ステレオ放送を受信すると、ステレオ表示が点灯します。

2 バンドを選ぶ

BAND ボタンを押す

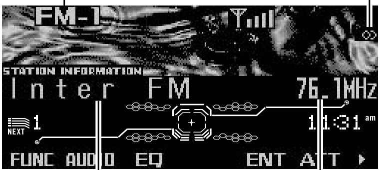
ボタンを押すごとに、次のようにバンドが切り換わります。

FM-1 → FM-2 → AM-1 → AM-2 → FM-1 に戻る

●バンドごとに放送局を6局ずつ記憶できます。**(☞ ラジオ❶ ❹ 52、54 ページ)**

●バンド1とバンド2を切り換えて使うことで、より多くの放送局を記憶できます。例えば、バンド1にはふだんよく聞く放送局を記憶させておきます。旅行などで、どんな放送局があるのか知らない地域に行ったときに、バンド2に切り換えてBSM **(☞ ラジオ❹ 54 ページ)**を使うと便利です。バンド1に記憶させた放送局を消さずに済みます。

バンド　ステレオ表示



放送局名　受信周波数

3 放送局を選局する

◄ または ► ボタンを押す

►：高い周波数の放送局を選局するとき
◄：低い周波数の放送局を選局するとき

選局方法の使い分け	
手動選局 (1ステップずつ)	0.5秒未満
自動選局	0.5秒以上

●0.5秒以上押し続けている間、途中の放送局をとばすことができます。ボタンを離したところから自動選局を開始します。

●電波の強い放送局を選局するには自動選局を、電波の弱い放送局を選局するには手動選局をおすすめします。

4 音量を調節する

VOLUMEを押す

押すと手前に出てきます。

●もう一度押すと、元に戻ります。

↓

VOLUMEを回す

右回し：大きくするとき
左回し：小さくするとき

●音量は、0～40の範囲で調節できます。

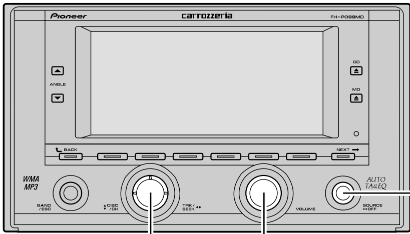
●約4秒間、音量が表示されます。

5 ラジオの受信をやめる

他のソースに切り換えるか、電源をOFFにする (☞ ここだけで❶ 18ページ)

ここだけで 6 マルチ CD のふだんの操作 ● CD を選ぶ ● 曲を選ぶ

ここだけの操作で、別売のマルチ CD プレーヤーで CD を聞くことができます。



1 ソースを マルチ CD にする

SOURCE ボタンを押す

マルチ CD の再生が始まります。

2 聞きたい CD を選ぶ

▲ または ▼ ボタンを押す

▲：次の CD を選ぶとき
▼：前の CD を選ぶとき

メ モ

- マルチ CD が準備動作（CD の有無の確認や CD の情報の読み込みなど）をしている場合があります。このとき、ソースをマルチ CD に切り換えると " Ready " と表示されます。
- マルチ CD 再生中にマルチ CD からマガジンを取り出すと、" No MAG " と表示されます。



3 聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

◄または►ボタンを押す

►：次の曲を選ぶとき（または早送り）
◄：前の曲を選ぶとき（または早戻し）

選曲と早送り/早戻しの使い分け	
聞きたい曲の選択	0.5秒未満
曲の早送り/早戻し	0.5秒以上押し続けている間

4 音量を調節する

VOLUMEを押す

押すと手前に出てきます。

●もう一度押すと、元に戻ります。

↓

VOLUMEを回す

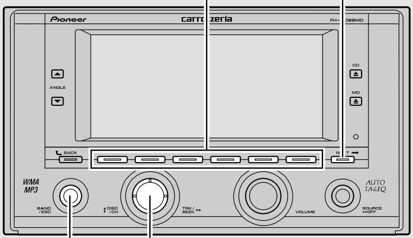
右回し：大きくするとき
左回し：小さくするとき

●音量は、0〜40の範囲で調節できます。

●約4秒間、音量が表示されます。

5 マルチCD再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源をOFFにする (☞ ここだけで❶ 18ページ)



内蔵CD 1 聞きたい曲を直接選ぶ

ダイレクトサーチ

リモコンを使って、聞きたい曲を直接選ぶことができます。

1 曲番号入力画面を表示する

リモコンのDIRECTボタンを押す
(☞ はじめに❶ 9ページ)



2 聞きたい曲の番号を入力する

リモコンの数字ボタンを押す



3 聞きたい曲を再生する

リモコンのDIRECTボタンを押す

選んだ曲が再生されます。



メモ

- 曲番号入力画面は、約8秒間何も操作しないと解除されます。
- リモコンのCLEARボタンを押すと、入力した番号を消去することができます。

内蔵CD 2 モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

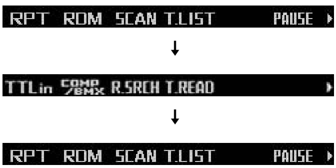
1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 セレクションキーを切り換える

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



に戻る

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

FUNCTION ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

RPT → RDM → SCAN → T.LIST → PAUSE → TTLin → COMP/BMX → R.SRCH → T.READ → RPT に戻る

メモ

- ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、タイトル入力モード (TTLin) を選んでいる場合、自動では解除されません。
- トラックリストモード (T.LIST) は、CD TEXT 再生中のみ表示され、操作することができます。
- CD TEXT には、タイトルを入力することはできません。CD TEXT 再生中にタイトル入力モード (TTLin) を選ぶと、“ 入力できません ” と表示されます。

内蔵CD 3 同じ曲を繰り返し聞く

トラックリピート再生

今聞いている曲を繰り返し聞くことができます。

1 リピートプレイ設定モードにする

FUNCボタンを押す

リピートプレイ設定モード以外を選んでいる場合は、RPTボタンを押す。

2 リピート再生をONにする

RPTボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



今聞いている曲を繰り返し再生します。

内蔵CD 4 いつもと違う曲順で聞く

ランダム再生

選曲をCDプレーヤーにまかせて、いつもと違う曲順(ランダム)で再生することができます。

1 ランダムプレイ設定モードにする

FUNCボタン、RDMボタンの順に押す

2 ランダム再生をONにする

RDMボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



次の曲から、ランダムに選曲します。

内蔵CD 5 聞きたい曲をさがす

スキャン再生

曲の出だし部分だけを、約10秒間ずつ次々に聞くことができます。

1 スキャンプレイ設定モードにする

FUNC ボタン、SCAN ボタンの順に押す

2 スキャン再生を始める

SCAN ボタンを押す



曲の出だしの約10秒間が次々に再生されます。

3 聞きたい曲が再生されたらスキャン再生を OFF にする

確認

ファンクションモードが解除されていたら、まず手順1の操作を行ってもう一度スキャンプレイ設定モードにしてください。次に、スキャン再生をOFFにします。

スキャンプレイ設定モードのときにSCAN ボタンを押す



メモ

- スキャン再生を始めた曲まで戻ると、スキャン再生は解除されます。

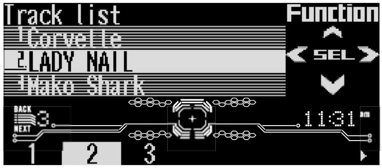
内蔵CD 6 曲名を見て聞きたい曲をさがす

トラックリスト

「CD TEXT」再生中に、曲名の一覧 (トラックリスト) を見ながら聞きたい曲をさがすことができます。

1 トラックリストモードにする

FUNC ボタン、T.LIST ボタンの順に押す



今聞いている曲の番号の下に、“ _ ” が表示されます。

2 聞きたい曲名を表示する

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに3曲ずつ表示が切り換わります。

3 聞きたい曲を選ぶ

聞きたい曲と同じ番号のボタンを押す

選んだ曲が再生されます。

メモ

- 「CD TEXT」に曲名が収録されていないときは、“ No T.Title ” と表示されます。
- ▲/▼ボタンで聞きたい曲を選び、►ボタンで選んだ曲を再生することもできます。

内蔵CD 7 CD再生を一時停止する

ポーズ

CD再生を一時停止することができます。

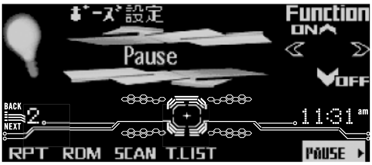
1 ポーズ設定モードにする

FUNCボタン、PAUSEボタンの順に押す

2 CD再生を一時停止する

PAUSEボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



メモ

- 次の表示のPAUSEボタンでも、ポーズをON/OFFすることができます。



内蔵CD 8 CDの音質を調節する

COMP / BMX

大きな音と小さな音の音量差を小さくしたり、残響音を補正することができます。

COMPについて

COMPとは、COMPression (コンプレッション) の略です。大きな音を抑え、小さな音を押し上げて、大きな音と小さな音の音量差を小さくする機能です。この機能は、小さな音が聞きとりにくいようなときにお使いになると便利です。

BMXについて

音楽の残響音を補正し、自然な広がりを持った音質に改善する機能です。WMA/MP3/WAVなどの残響音の成分を補正し、本来の音質を再現することができます。

1 コンプレッション設定モードにする

FUNCボタン、NEXTボタン、COMP/BMXボタンの順に押す

2 機能を選ぶ

COMP/BMXボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

COMP/BMX OFF → COMP1
↑ ↓
BMX 2 COMP 2
↑ ↓
BMX 1 ← COMP/BMX OFF



現在のCOMP / BMXの状態が表示されます。

メモ

- COMP、BMXともに1より2の方が効果が大きくなります。

内蔵CD 9 選曲方法を切り換える

◄または►ボタンを0.5秒以上押し続けたときに、早送り/早戻しにするか、10曲飛びに選曲するラフサーチにするかを選ぶことができます。

1 ラフサーチ設定モードにする

FUNCボタン、NEXTボタン、R.SRCHボタンの順に押す

2 選曲方法を選ぶ

R.SRCHボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



FF/REV (早送り/早戻し)
→ Rough search (ラフサーチ)
→ FF/REVに戻る

内蔵CD 10 10曲飛びに選曲する

ラフサーチ

収録されている曲が10を超えるディスクの場合、10曲飛びに選曲することができます。

1 ラフサーチ設定モードにしてラフサーチを選ぶ

(☞ 内蔵CD❾)

2 聞きたい曲を選ぶ

◄または►ボタンを0.5秒以上押す

►：10曲先の曲を選ぶとき
◄：10曲前の曲を選ぶとき

メモ

● 10曲以下のディスクでラフサーチを行うと、最初の曲と最後の曲が選曲されます。ラフサーチ後に、残りの曲が10曲以下になった場合も同様です。

内蔵CD 11 CDのタイトルを入力する

ディスクタイトル入力

CDのタイトルを入力することができます。また、入力したタイトルはディスプレイに表示されます。

タイトル入力について

タイトル表示は、CDのタイトルを入力して記憶させておき、ディスプレイに表示させる機能です。タイトルを入力しておくと、CD再生時に入力したタイトルが表示されます。

タイトルの記憶のしかたは、マルチCDと同じです。**(☞ マルチCD⑩ 62ページ)**

- タイトルは、10文字まで入力できます。
- 内蔵CDのタイトルは、48枚分の記憶ができます。
- 48枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。
- タイトルを記憶させたCDをマルチCDにセットしたときは、ディスプレイにタイトルを表示させることができます。
- マルチCDを組み合わせると、最大100枚分のタイトルを記憶することができます。

内蔵CD 12 タイトル表示を

「CD TEXT」**(☞ はじめに❷ 10ページ)**再生中に、ディスクタイトルのほかにトラックタイトルやディスクアーティストネームを表示させることができます。一度に表示可能なのは、全角で16文字、半角で32文字までです。また、隠れている文字はスクロールさせて見ることができます。

1 タイトルモードにする

TITLEボタンを押す

2 表示したいタイトルを選ぶ

表示したいタイトルのボタンを押す

FORM 1、FORM 3

ボタン	表示内容
D.TTL	ディスクタイトル
D.ART	ディスクアーティストネーム
T.TTL	トラックタイトル
T.ART	トラックアーティストネーム
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

FORM 2

ボタン	表示内容
TTL1	ディスクタイトルとトラックタイトル
TTL2	ディスクタイトルとディスクアーティストネーム
TTL3	トラックタイトルとトラックアーティストネーム
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

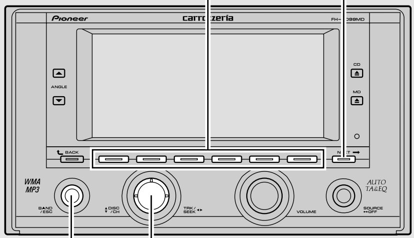
切り換える

タイトル表示 / タイトルスクロール

メモ

- タイトルモードは、約8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。
- タイトルモードでは、◄/► ボタンで曲を選ぶことはできません。
- FORM 2を選んでいる場合、一度に表示できるのは全角で12文字、半角で24文字までです。
- トラックアーティストネームなどが記憶されていないCDで表示を切り換えると、“ No artist name ” などと表示されます。
- タイトルが入力されていないCDで表示を切り換えると、“ No title ” と表示されます。
- 初期設定で連続スクロール機能をONにした場合、タイトルが繰り返しスクロールして表示されます。タイトルの最初の16文字（全角）または32文字(半角）を表示させて、再びスクロールさせたいときは、SCROLLボタンを押してください。連続スクロールについては**(☞ 便利な機能⑲ 108ページ)**

内蔵CDでCDを聞く



WMA/MP3/WAV 1 聞きたい曲を直接選ぶ

ダイレクトサーチ

リモコンを使って、今聞いているフォルダー内で聞きたい曲を直接選ぶことができます。

1 曲番号入力画面を表示する

リモコンの DIRECT ボタンを押す
(☞ はじめに❶ 9 ページ)



2 聞きたい曲の番号を入力する

リモコンの数字ボタンを押す



3 聞きたい曲を再生する

リモコンの DIRECT ボタンを押す

選んだ曲が再生されます。



メモ

- 曲番号入力画面は、約 8 秒間何も操作しないと解除されます。
- リモコンの CLEAR ボタンを押すと、入力した番号を消去することができます。

モードの切り換えかた

WMA/MP3/WAV 2

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 セレクションキーを切り換える

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



↓



↓



に戻る

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

FUNCTION ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

RPT → RDM → SCAN → F.LIST → PAUSE → TTLin → COMP/BMX → R.SRCH → T.READ → RPT に戻る

メモ

- ファンクションモードは、約 30 秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、タイトル入力モード (TTLin) を選んでいる場合、自動では解除されません。
- CD-ROM には、タイトルを入力することはできません。CD-ROM 再生中にタイトル入力モード (TTLin) を選ぶと、“ 入力できません ” と表示されます。

WMA/MP3/WAV 3 同じ曲やフォルダーを繰り返し聞く

リピート再生

今聞いている曲や1つのフォルダーなど、繰り返し再生する範囲を選ぶことができます。

再生範囲について

再生範囲（繰り返し聞く範囲）は、次の中から選ぶことができます。

表示	再生範囲
Track repeat	再生中の曲
Folder repeat	再生中のフォルダー
Disc repeat	本機にセットされているディスク(通常は、このモードにしておきます)

1 再生範囲切換モードにする

FUNCボタンを押す

再生範囲切換モード以外を選んでいる場合は、RPTボタンを押す。

2 再生範囲を切り換える

RPTボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



Track repeat (トラックリピート)
→ Folder repeat (フォルダーリピート)
→ Disc repeat (ディスクリピート)
→ Track repeatに戻る

メモ

● フォルダーリピートは、再生中のフォルダー内の曲(WMA/MP3/WAVファイル) だけを再生します。サブフォルダー内の曲は再生されません。

WMA/MP3/WAV 4 いつもと違う曲順で聞く

ランダム再生

選曲を内蔵CDにまかせて、いつもと違う曲順(ランダム)で再生することができます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ

(☞ WMA/MP3/WAV❸)

選んだ再生範囲内でランダム再生が行われます。

2 ランダムプレイ設定モードにする

FUNCボタン、RDMボタンの順に押す

3 ランダム再生をONにする

RDMボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



次の曲から、ランダムに選曲します。

メモ

● トラックリピートのときにランダム再生をONにすると、再生範囲がフォルダーリピートに切り換わり、ランダム再生します。

聞きたい曲やフォルダーをさがす

今聞いているフォルダー内の曲の出だし部分だけを約10秒間ずつ次々に聞くことができます。また、全フォルダーの1曲目の出だし部分だけを次々に聞くこともできます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ

(☞ WMA/MP3/WAV❸)

■ 聞きたい曲をさがすとき(トラックスキャン再生)

再生範囲をフォルダーリピートに切り換えます。再生中のフォルダーの全曲を、約10秒ずつ再生することができます。

■ 聞きたいフォルダーをさがすとき(フォルダースキャン再生)

再生範囲をディスクリピートに切り換えます。ディスク内の全フォルダーの1曲目だけを、約10秒ずつ再生することができます。

2 スキャンプレイ設定モードにする

FUNCボタン、SCANボタンの順に押す

3 スキャン再生を始める

SCANボタンを押す



曲の出だしの約10秒間が次々に再生されます。

4 聞きたい曲(フォルダー)が再生されたらスキャン再生をOFFにする

確認

ファンクションモードが解除されていたら、まず手順2の操作を行ってもう一度スキャンプレイ設定モードにしてください。次に、スキャン再生をOFFにします。

スキャンプレイ設定モードのときにSCANボタンを押す



メモ

- スキャン再生を始めた曲(またはフォルダー)まで戻ると、スキャン再生は解除されます。
- トラックリピートのときにスキャン再生をONにすると、再生範囲がフォルダーリピートに切り換わり、スキャン再生します。

WMA/MP3/WAV 6 聞きたいフォルダーや曲を一覧からさがす

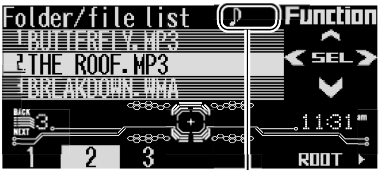
フォルダー / ファイルリスト

なまえの一覧 (フォルダー / ファイルリスト) を見ながら、聞きたいフォルダーや曲をさがすことができます。

1 フォルダー / ファイルリストモードにする

FUNC ボタン、F.LIST ボタンの順に押す

今聞いているフォルダーや曲 (ファイル) の番号の下に、" _ " が表示されます。



曲 (ファイル) を選んだときに表示されます。

2 聞きたいフォルダーや曲 (ファイル) を表示する

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに 3 つずつ表示が切り換わります。

選んでいるフォルダーの中に、フォルダーや曲 (ファイル) が収録されているときに表示されます。



選んでいるフォルダーの中身によって、表示が変わります。

"  "：フォルダーと曲 (ファイル) が収録されている

"  "：フォルダーが収録されている

"  "：曲 (ファイル) が収録されている

"  "：何も収録されていない

3 聞きたいフォルダーや曲 (ファイル) を選ぶ

聞きたいフォルダーや曲 (ファイル) と同じ番号のボタンを押す

選んだフォルダーや曲 (ファイル) が再生されます。

メモ

- ROOT ボタンを押すと、第 1 階層にあるフォルダーや曲 (ファイル) の一覧を表示することができます。
- ▲/▼ ボタンで聞きたいフォルダーや曲 (ファイル) を選ぶことができます。► ボタンでフォルダー内に移動したり、曲 (ファイル) を再生したりすることができます。フォルダーを選んだときは、► ボタンを 2 秒以上押すとそのフォルダー内の曲 (ファイル) を再生することができます。
- ◄ ボタンを押すと、1 つ上の階層に戻ることができます。◄ ボタンを 2 秒以上押すと、第 1 階層に戻ることができます。

WMA/MP3/WAV 7 WMA/MP3/WAV 再生を一時停止する

ポーズ

WMA/MP3/WAV 再生を一時停止することができます。

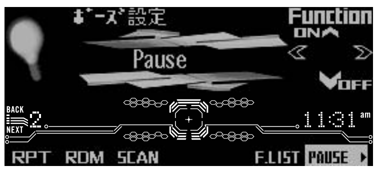
1 ポーズ設定モードにする

FUNC ボタン、PAUSE ボタンの順に押す

2 WMA/MP3/WAV 再生を一時停止する

PAUSE ボタンを押す

ボタンを押すごとに ON/OFF します。



メモ

- 次の表示の PAUSE ボタンでも、ポーズを ON/OFF することができます。



WMA/MP3/WAV 8 WMA/MP3/WAVの音質を調節する

COMP / BMX

大きな音と小さな音の音量差を小さくしたり、残響音を補正することができます。

COMPについて

COMPとは、COMPression (コンプレッション) の略です。大きな音を抑え、小さな音を押し上げて、大きな音と小さな音の音量差を小さくする機能です。この機能は、小さな音が聞きとりにくいようなときにお使いになると便利です。

BMXについて

音楽の残響音を補正し、自然な広がりを持った音質に改善する機能です。WMA/MP3/WAVなどの残響音の成分を補正し、本来の音質を再現することができます。

1 コンプレッション設定モードにする

FUNCボタン、NEXTボタン、COMP/BMXボタンの順に押す

2 機能を選ぶ

COMP/BMXボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

COMP/BMX OFF→ COMP1
↑ ↓
BMX 2 COMP 2
↑ ↓
BMX 1 ← COMP/BMX OFF



現在のCOMP / BMXの状態が表示されます。

メモ

● COMP、BMXともに1より2の方が効果が大きくなります。

WMA/MP3/WAV 9 選曲方法を切り換える

◄または►ボタンを0.5秒以上押し続けたときに、早送り/早戻しにするか、10曲飛びに選曲するラフサーチにするかを選ぶことができます。

1 ラフサーチ設定モードにする

FUNCボタン、NEXTボタン、R.SRCHボタンの順に押す

2 選曲方法を選ぶ

R.SRCHボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



FF/REV (早送り/早戻し)
→ Rough search (ラフサーチ)
→ FF/REVに戻る

WMA/MP3/WAVを聞く

WMA/MP3/WAV 10 フォルダー内の曲を10曲飛びに選曲する

ラフサーチ

収録されている曲が10を超えるフォルダーの場合、10曲飛びに選曲することができます。

1 ラフサーチ設定モードにしてラフサーチを選ぶ

(☞ WMA/MP3/WAV❾ 43ページ)

2 再生画面に戻る

BANDボタンを押す

3 聞きたい曲を選ぶ

◄または►ボタンを0.5秒以上押す

►：10曲先の曲を選ぶとき
◄：10曲前の曲を選ぶとき

メモ

● 10曲以下のフォルダーでラフサーチを行うと、最初の曲と最後の曲が選曲されます。ラフサーチ後に、残りの曲が10曲以下になった場合も同様です。

WMA/MP3/WAV 11 TAG表示をON/OFFする

トラックタイトルやアーティストネームなどの文字情報を収録したMP3/WMAディスクを再生している場合、ID3 tagやWMA tagの表示をON/OFFすることができます。(この機能は、初期設定でONになっています。)

1 文字情報読込設定モードにする

FUNCボタン、NEXTボタン、T.READボタンの順に押す

2 文字情報読込をONにする

T.READボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



メモ

● 文字情報読込をONにすると、文字情報を読み込むために聞いている曲の出だしに戻って再生されます。
● ID3 tagのVer1.0およびVer1.1の場合、ID3 tagの表示をOFFにすると、ONにしている場合に比べ、曲を切り換えたときに再生が始まるまでの時間が短くなります。

タイトル表示を切り換える

タイトル表示 / タイトルスクロール

フォルダーネームのほかにトラックタイトルやアルバムタイトルを表示させることができます。一度に表示可能なのは、全角で16文字、半角で32文字までです。また、隠れている文字はスクロールさせて見ることができます。

1 タイトルモードにする

TITLE ボタンを押す

2 表示したいタイトルを選ぶ

表示したいタイトルのボタンを押す

FORM 1、FORM 3

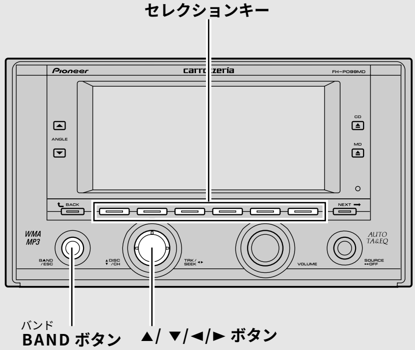
ボタン	表示内容
FOLDER	フォルダーネーム
FILE	ファイルネーム
ALBUM	アルバムタイトル
T.TTL	トラックタイトル
ARTIST	アーティストネーム
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

FORM 2

ボタン	表示内容
F+FIL	フォルダーネームとファイルネーム
FIL+T	ファイルネームとトラックタイトル
ALB+T	アルバムタイトルとトラックタイトル
TR+ART	トラックタイトルとアーティストネーム
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

メモ

- タイトルモードは、約8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。
- タイトルモードでは、▲/▼/◄/► ボタンでフォルダーや曲を選ぶことはできません。
- FORM 2を選んでいる場合、一度に表示できるのは全角で12文字、半角で24文字までです。
- トラックタイトル (Track Title) などが収録されていないCD-ROMで表示を切り換えると、“ No T.Ttitle ” などと表示されます。
- WMAファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、アルバムタイトルなどの文字情報が本機で正しく表示されないことがあります。
- 初期設定で連続スクロール機能をONにした場合、タイトルが繰り返しスクロールして表示されます。タイトルの最初の16文字（全角）または32文字(半角）を表示させて、再びスクロールさせたいときは、SCROLLボタンを押してください。連続スクロールについては**(☞ 便利な機能⑲ 108ページ)**



内蔵MD 1 聞きたい曲を直接選ぶ

ダイレクトサーチ

リモコンを使って、聞きたい曲を直接選ぶことができます。

1 曲番号入力画面を表示する

リモコンの DIRECT ボタンを押す
(☞ はじめに❶ 9 ページ)



2 聞きたい曲の番号を入力する

リモコンの数字ボタンを押す



3 聞きたい曲を再生する

リモコンの DIRECT ボタンを押す

選んだ曲が再生されます。



メモ

- 曲番号入力画面は、約8秒間何も操作しないと解除されます。
- リモコンのCLEARボタンを押すと、入力した番号を消去することができます。

内蔵MD 2 モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNCボタンを押す

2 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す



押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

3 ファンクションモードを解除する

BANDボタンを押す

リモコンの場合

FUNCTIONボタンを押すごとに次のように切り換わります。

RPT → RDM → SCAN → T.LIST → G.LIST → PAUSE → RPTに戻る

メモ

- ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。
- グループリストモード (G.LIST) は、グループディスク再生中のみ表示され、操作することができます。

内蔵MD 3 同じ曲やグループを繰り返し聞く

リピート再生

今聞いている曲を繰り返し聞くことができます。グループディスクの場合、今聞いている曲や1つのグループなど、繰り返し再生する範囲を選ぶことができます。

グループディスク以外の場合

1 リピートプレイ設定モードにする

FUNCボタンを押す

リピートプレイ設定モード以外を選んでいる場合は、RPTボタンを押す。

2 リピート再生をONにする

RPTボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



今聞いている曲を繰り返し再生します。

内蔵MDでMDを聞く

内蔵MD 3 同じ曲やグループを繰り返し聞く (つづき)

リピート再生

グループディスクの場合

再生範囲について

再生範囲 (繰り返し聞く範囲) は、次の中から選ぶことができます。

表示	再生範囲
Track repeat	再生中の曲
Group repeat	再生中のグループ
Disc repeat	本機にセットされているディスク (通常は、このモードにしておきます)

1 再生範囲切換モードにする

FUNCボタンを押す

再生範囲切換モード以外を選んでいる場合は、RPTボタンを押す。

2 再生範囲を切り換える

RPTボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



Track repeat (トラックリピート)
→ Group repeat (グループリピート)
→ Disc repeat (ディスクリピート)
→ Track repeatに戻る

内蔵MD 4 いつもと違う曲順で聞く

ランダム再生

選曲をMDプレーヤーにまかせて、いつもと違う曲順 (ランダム) で再生することができます。

1 グループディスクの場合、再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ

(☞ 内蔵MD❸ 47ページ)

選んだ再生範囲内でランダム再生が行われます。

2 ランダムプレイ設定モードにする

FUNCボタン、RDMボタンの順に押す

3 ランダム再生をONにする

RDMボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



次の曲から、ランダムに選曲します。

メモ

● グループディスクの場合、トラックリピートのときにランダム再生をONにすると、再生範囲がグループリピートに切り換わり、ランダム再生します。

聞きたい曲やグループをさがす

スキャン再生

曲の出だし部分だけを、約10秒間ずつ次々に聞くことができます。グループディスクの場合、今聞いているグループ内の曲の出だし部分だけを次々に聞くことができます。また、全グループの1曲目の出だし部分だけを次々に聞くこともできます。

1 グループディスクの場合、再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ

(☞ 内蔵MD❸ 47ページ)

■ **聞きたい曲をさがすとき (トラックスキャン再生)**

再生範囲をグループリピートに切り換えます。再生中のグループの全曲を、約10秒ずつ再生することができます。

■ **聞きたいグループをさがすとき (グループスキャン再生)**

再生範囲をディスクリピートに切り換えます。ディスク内の全グループの1曲目だけを、約10秒ずつ再生することができます。

2 スキャンプレイ設定モードにする

FUNCボタン、SCANボタンの順に押す

3 スキャン再生を始める

SCANボタンを押す



曲の始めの約10秒間が次々に再生されます。

4 聞きたい曲 (グループ) が再生されたらスキャン再生をOFFにする

確認

ファンクションモードが解除されていたら、まず手順2の操作を行ってもう一度スキャンプレイ設定モードにしてください。次に、スキャン再生をOFFにします。

スキャンプレイ設定モードのときにSCANボタンを押す



メモ

- スキャン再生を始めた曲 (またはグループ) まで戻ると、スキャン再生は解除されます。
- グループディスクの場合、トラックリピートのときにスキャン再生をONにすると、再生範囲がグループリピートに切り換わり、スキャン再生します。

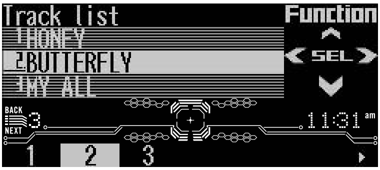
内蔵MD 6 曲名を見て聞きたい曲をさがす

トラックリスト

曲名の一覧 (トラックリスト) を見ながら、聞きたい曲をさがすことができます。

1 トラックリストモードにする

FUNC ボタン、T.LIST ボタンの順に押す



今聞いている曲の番号の下に、“ _ ” が表示されます。

2 聞きたい曲名を表示する

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに3曲ずつ表示が切り換わります。

3 聞きたい曲を選ぶ

聞きたい曲と同じ番号のボタンを押す

選んだ曲が再生されます。

メモ

- 曲名が収録されていないときは、“ No T.Title ” と表示されます。
- ▲/▼ ボタンで聞きたい曲を選び、► ボタンで選んだ曲を再生することもできます。

内蔵MD 7 グループ名を見て聞きたいグループをさがす

グループリスト

グループ名の一覧 (グループリスト) を見ながら聞きたいグループをさがすことができます。

チェック ◆ グループディスクの場合に操作できます。

1 グループリストモードにする

FUNC ボタン、G.LIST ボタンの順に押す

今聞いているグループの番号の下に、“ _ ” が表示されます。



選んだグループ内に登録されている曲の数が表示されます。

2 聞きたいグループ名を表示する

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに3グループずつ表示が切り換わります。

3 聞きたいグループを選ぶ

聞きたいグループと同じ番号のボタンを押す

選んだグループが再生されます。

メモ

- グループ名が収録されていないときは、“ No G.Title ” と表示されます。
- ▲/▼ ボタンで聞きたいグループを選び、► ボタンで選んだグループを再生することもできます。

内蔵MD 8

MD再生を一時停止する

ポーズ

MD再生を一時停止することができます。

1 ポーズ設定モードにする

FUNCボタン、PAUSEボタンの順に押す

2 MD再生を一時停止する

PAUSEボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



メモ

- 次の表示のPAUSEボタンでも、ポーズをON/OFFすることができます。



内蔵MD 9

タイトル表示を切り換える

タイトル表示 / タイトルスクロール

ディスクタイトル、グループタイトル、およびトラックタイトルを表示させることができます。一度に表示可能なのは、全角で16文字、半角で32文字までです。また、隠れている文字はスクロールさせて見ることができます。

タイトル表示について

本機はカナやアルファベットなどの表示だけではなく、ひらがなや漢字などの表示にも対応しています。MDに漢字などの文字情報が収録されている場合でも、本機ではそのまま表示することができます。

1 タイトルモードにする

TITLEボタンを押す

2 表示したいタイトルを選ぶ

表示したいタイトルのボタンを押す

FORM 1、FORM 3

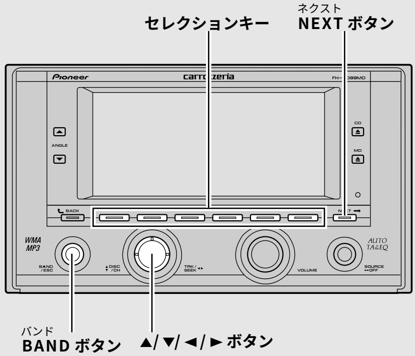
ボタン	表示内容
D.TTL	ディスクタイトル
G.TTL	グループタイトル
T.TTL	トラックタイトル
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

FORM 2

ボタン	表示内容
TTL1	グループタイトルとトラックタイトル
TTL2	ディスクタイトルとトラックタイトル
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

メモ

- タイトルモードは、約8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。
- タイトルモードでは、▲/▼/◄/►ボタンでグループや曲を選ぶことはできません。
- FORM 2を選んでいる場合、一度に表示できるのは全角で12文字、半角で24文字までです。
- タイトルが入力されていないMDで表示を切り換えると、“ No title ”と表示されます。
- “ G.TTL ”、“ TTL1 ”、“ TTL2 ”は、グループディスク再生中のみ表示されます。
- 初期設定で連続スクロール機能をONにした場合、タイトルが繰り返しスクロールして表示されます。タイトルの最初の16文字（全角）または32文字（半角）を表示させて、再びスクロールさせたいときは、SCROLLボタンを押してください。連続スクロールについては**(☞ 便利な機能⑲ 108ページ)**



ラジオ 1 放送局を 1 局ずつ記憶させる

プリセットメモリー

お好みの放送局を、1～6 のボタンに 1 局ずつ手動で記憶させることができます。

1 記憶させるバンドを選ぶ

BAND ボタンを押す

(☞ ここだけで❺ 26 ページ)

2 記憶させたい放送局を選局する

◄ または ► ボタンを押す

(☞ ここだけで❺ 27 ページ)

3 " 1 " ～ " 6 " を表示する

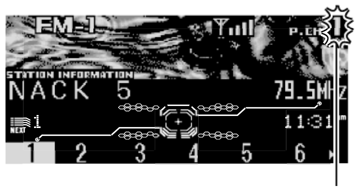
NEXT ボタンを押す

" 1 " ～ " 6 " が表示されるまで、NEXT ボタンを押して切り換える。



4 記憶させる

1 ～ 6 のボタンの 1 つを 2 秒以上押す



押したボタンの番号 (記憶番号) が点滅します。

↓

押したボタンに受信中の放送局が記憶されると、点滅が終わります。

メモ

● 記憶させた放送局を呼び出すには **(☞ ラジオ❷)**

ラジオ 2 記憶させた放送局を呼び出す

プリセットチューニング

記憶させた放送局は、簡単に呼び出すことができます。

1 記憶させたバンドを選ぶ

BAND ボタンを押す
(☞ ここだけで❺ 26 ページ)

2 記憶させた放送局を呼び出す

■ 記憶させた放送局を順番に呼び出す

▲または▼ボタンを押す

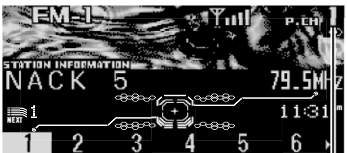
▲：次の記憶番号の放送局を呼び出すとき
▼：前の記憶番号の放送局を呼び出すとき

■ 記憶させた放送局を直接呼び出す

1～6 のボタンの 1 つを押す

確認

“1”～“6”が表示されていないときは、NEXT ボタンで表示させてから操作してください。



受信中の記憶番号

ラジオ 3 モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 セレクションキーを切り換える

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

BSM chLIST
↓
ST.SEL
↓
BSM chLIST に戻る

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

FUNCTION ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

BSM → chLIST → ST.SEL → BSM に戻る

メモ

● ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

ラジオ 4 複数の放送局を自動的に記憶させる

BSM

受信状態の良い放送局をさがして、自動的に1～6のボタンに記憶させることができます。

1 記憶させるバンドを選ぶ

BANDボタンを押す
(☞ ここだけで❺ 26ページ)

2 BSMモードにする

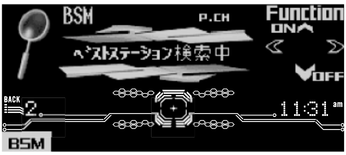
FUNCボタンを押す

BSMモード以外を選んでいる場合は、BSMボタンを押す。

3 BSMを始める

BSMボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



記憶が終わるとステーションリストモードに切り換わり、1のボタンに記憶した放送局を受信します。

メモ

- 受信状態の良い放送局が6局より少ないときは、前の記憶が残ることがあります。
- BSMとは、Best Stations Memory (ベストステーションズ メモリー) の略です。
- 記憶させた放送局を呼び出すには **(☞ ラジオ❷❺ 53、54ページ)**

ラジオ 5 放送局名を見て聞きたい放送局を呼び出す

ステーションリスト

1～6のボタンに記憶させた放送局を、放送局名の一覧 (ステーションリスト) の中からさがすことができます。

1 ステーションリストモードにする

FUNCボタン、chLISTボタンの順に押す



今受信中の放送局の番号の下に、“ _ ” が表示されます。

2 聞きたい放送局を表示する

NEXTボタンを押す

ボタンを押すごとに、放送局の表示が3つずつ切り換わります。

3 聞きたい放送局を選ぶ

聞きたい放送局と同じ番号のボタンを押す

選んだ放送局を受信します。

メモ

- 表示されている放送局名が受信している放送局と異なる場合、放送局名を変更することができます。**(☞ ラジオ❻)**
- 放送局名が登録されていない放送局の場合、周波数が表示されます。
- ▲/▼ボタンで聞きたい放送局を選び、►ボタンで選んだ放送局を受信することもできます。

ラジオ 6

放送局名を選ぶ

受信している放送局に合わせて、表示する放送局名を選ぶことができます。

放送局名について

同じ周波数でも、受信する放送局は地域によって違います。表示される放送局名は、受信している放送局のものと異なる場合に変更することができます。

注意

本機に登録されていない放送局名は選べません。

1 実際の放送局名と表示が異なる場合、放送局名選択モードにする

FUNCボタン、NEXTボタン、ST.SELボタンの順に押す。

注意

現在受信している周波数以外の放送局名を変更することはできません。別の周波数の放送局名を変更したい場合、その周波数を受信して (☞ ここだけで❺ 27ページ) から放送局名選択モードにしてください。

2 放送局名を選ぶ

◄ または ► ボタンを押す

►：次の放送局名を選ぶとき
◄：前の放送局名を選ぶとき

3 選んだ放送局名に変更する

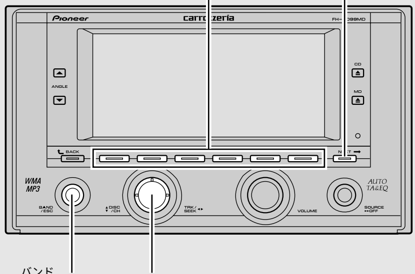
▲ ボタンを押す

選んだ放送局名に変更されます。



メモ

- 選んだ周波数に該当する放送局名が登録されていない場合、“ No data ” と表示されます。
- 放送局名を表示させたくないときは、すべて空白の表示を選んでください。
- パイオニア製のFMモジュレータータイプのマルチCDをお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせると、放送局名を “ FM M-CD ” に変更して表示することができます。
- パイオニア製のTVをFMモジュレーターでお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせると、放送局名を “ FM TVsound ” に変更して表示することができます。



マルチCD 1 聞きたい曲を直接選ぶ

ダイレクトサーチ (トラック)

リモコンを使って、今聞いているCD内の聞きたい曲を直接選ぶことができます。

1 曲番号入力画面を表示する

リモコンの DIRECT ボタンを押す

(☞ はじめに❶ 9 ページ)



2 聞きたい曲の番号を入力する

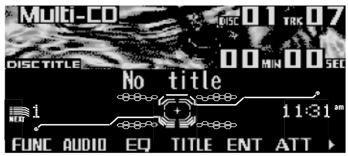
リモコンの数字ボタンを押す



3 聞きたい曲を再生する

リモコンの DIRECT ボタンを押す

選んだ曲が再生されます。



メモ

- 曲番号入力画面は、約8秒間何も操作しないと解除されます。
- リモコンのCLEARボタンを押すと、入力した番号を消去することができます。

マルチCD 2 聞きたいCDを直接選ぶ

ダイレクトサーチ（ディスク）

聞きたいCDにワンタッチで切り換えることができます。

1 “1”～“6”（または“7”～“12”）を表示する

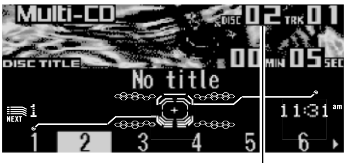
NEXTボタンを押す

“1”～“6”（または“7”～“12”）が表示されるまで、NEXTボタンを押して切り換える。



2 聞きたいCDを選ぶ

1～6（または7～12）のボタンを押す



CD番号

メモ

- 6連奏マルチCDプレーヤーをご使用の場合、“7”～“12”の表示には切り換わりません。

マルチCD 3 モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNCボタンを押す

2 セレクションキーを切り換える

NEXTボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



↓



↓



に戻る

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 ファンクションモードを解除する

BANDボタンを押す

リモコンの場合

FUNCTIONボタンを押すごとに次のように切り換わります。

RPT → RDM → SCAN → T.LIST → D.LIST → PAUSE → TTLin → COMP → ITS.P → ITS.M → RPTに戻る

メモ

- ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、タイトル入力モード(TTLin)やITS登録モード(ITS.M)を選んでいる場合、自動では解除されません。
- トラックリストモード(T.LIST)は、「CD TEXT」に対応しているマルチCD(CDX-P670など)で「CD TEXT」を再生しているときのみ表示され、操作することができます。

マルチCD 4 同じ曲やCDを繰り返し聞く

リピート再生

今聞いている曲や1枚のCDなど、繰り返し再生する範囲を選ぶことができます。

再生範囲について

再生範囲（繰り返し聞く範囲）は、次の中から選ぶことができます。

表示	再生範囲
Track repeat	再生中の曲
Disc repeat	再生中のCD
Magazine repeat	マルチCDにセットされているすべてのCD（通常はこのモードにしておきます）

1 再生範囲切換モードにする

FUNCボタンを押す

再生範囲切換モード以外を選んでいる場合は、RPTボタンを押す。

2 再生範囲を切り換える

RPTボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



Track repeat（トラックリピート）
→ Disc repeat（ディスクリピート）
→ Magazine repeat（マガジンリピート）
→ Track repeatに戻る

マルチCD 5 いつもと違う曲順で聞く

ランダム再生

選曲をマルチCDにまかせて、いつもと違う曲順（ランダム）で再生することができます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ（☞ マルチCD❹）

選んだ再生範囲内でランダム再生が行われます。

2 ランダムプレイ設定モードにする

FUNCボタン、RDMボタンの順に押す

3 ランダム再生をONにする

RDMボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



次の曲から、ランダムに選曲します。

メモ

- トラックリピートのときにランダム再生をONにすると、再生範囲がディスクリピートに切り換わりランダム再生します。

マルチCD 6 聞きたい曲やCDをさがす

トラックスキャン再生 / ディスクスキャン再生

今聞いているCDの曲の出だし部分だけを約10秒間ずつ次々に聞くことができます。また、全CDの1曲目の出だし部分だけを次々に聞くこともできます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ (☞ マルチCD❹)

■ 聞きたい曲をさがすとき (トラックスキャン再生)

再生範囲をディスクリピートに切り換えます。再生中のCDの全曲を、約10秒ずつ再生することができます。

■ 聞きたいCDをさがすとき (ディスクスキャン再生)

再生範囲をマガジンリピートに切り換えます。マルチCD内の全CDの1曲目だけを、約10秒ずつ再生することができます。

2 スキャンプレイ設定モードにする

FUNCボタン、SCANボタンの順に押す

3 スキャン再生を始める

SCANボタンを押す



曲の出だしの約10秒間が次々に再生されます。

4 聞きたい曲 (CD) が再生されたらスキャン再生をOFFにする

確認

ファンクションモードが解除されていたら、まず手順2の操作を行ってもう一度スキャンプレイ設定モードにしてください。次に、スキャン再生をOFFにします。

スキャンプレイ設定モードのときにSCANボタンを押す



メモ

- スキャン再生を始めた曲 (またはCD) まで戻ると、スキャン再生は解除されます。
- トラックリピートのときにスキャン再生をONにすると、再生範囲がディスクリピートに切り換わりトラックスキャン再生します。

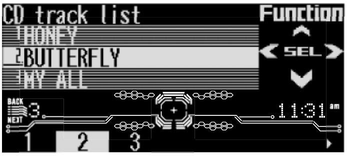
マルチCD 7 曲名を見て聞きたい曲をさがす

トラックリスト

「CD TEXT」再生中に、曲名の一覧(トラックリスト)を見ながら聞きたい曲をさがすことができます。

1 トラックリストモードにする

FUNCボタン、T.LISTボタンの順に押す



今聞いている曲の番号の下に、“ _ ” が表示されます。

ご注意

「CD TEXT」に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)で「CD TEXT」を再生しているときだけ、トラックリストモードに切り換わります。

2 聞きたい曲名を表示する

NEXTボタンを押す

ボタンを押すごとに3曲ずつ表示が切り換わります。

3 聞きたい曲を選ぶ

聞きたい曲と同じ番号のボタンを押す

選んだ曲が再生されます。

メモ

- 「CD TEXT」に曲名が収録されていないときは、“ No T.Title ” と表示されます。
- ▲/▼ボタンで聞きたい曲を選び、►ボタンで選んだ曲を再生することもできます。
- ◄ボタンを押すことで、ディスクリストモードに切り換えることができます。

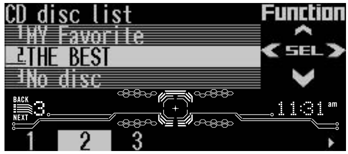
マルチCD 8 タイトルを見て聞きたいCDをさがす

ディスクリスト

CDのタイトル一覧(ディスクリスト)を見ながら、聞きたいCDをさがすことができます。

1 ディスクリストモードにする

FUNCボタン、D.LISTボタンの順に押す



今聞いているCDの番号の下に、“ _ ” が表示されます。

2 聞きたいCDを表示する

NEXTボタンを押す

ボタンを押すごとに、CDの表示が3枚ずつ切り換わります。

3 聞きたいCDを選ぶ

聞きたいCDと同じ番号のボタンを押す

選んだCDが再生されます。

メモ

- ▲/▼ボタンで聞きたいCDを選び、►ボタンで選んだCDを再生することもできます。
- 「CD TEXT」を再生している場合、►ボタンを押すことでトラックリストモードに切り換えることができます。
- マガジンにCDがセットされていないときは、“ No disc ” と表示されます。また、タイトルが記憶されていないCDを入れたときは、“ No D.Title ” と表示されます。

マルチCD 9

CD再生を一時停止する

ポーズ

CD再生を一時停止することができます。

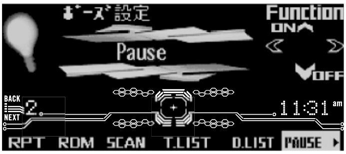
1 ポーズ設定モードにする

FUNCボタン、PAUSEボタンの順に押す

2 CD再生を一時停止する

PAUSEボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



メモ

● 次の表示のPAUSEボタンでも、ポーズをON/OFFすることができます。



マルチCD 10 CDのタイトルを記憶させる

CDのタイトルを入力することができます。また、入力したタイトルはディスプレイに表示されます。

タイトル入力について

タイトル表示は、CDのタイトルを入力して記憶させておき、ディスプレイに表示させる機能です。タイトル入力しておくと、CD再生時に入力したタイトルが表示されます。

CDにタイトルを付けるとディスクリスト **(☞ マルチCD❽ 60ページ)** で聞きたいCDをさがすこともできます。

「CD TEXT」に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)では、「CD TEXT」にあらかじめ収録されているCDタイトルのディスクリスト **(☞ マルチCD❽ 60ページ)** を表示することができます。

- タイトルは10文字まで入力できます。
- 記憶はCDごとに行われます。CDを入れ換えても、そのCDの記憶は消えません。
- タイトルは、ITS **(☞ マルチCD⓬ 65ページ)** と合わせてCD100枚分の記憶ができます。
- 100枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。

1 タイトルを入力したいCDを再生する

▲または▼ボタンを押す
(☞ ここだけで❻ 28ページ)

2 タイトル入力モードにする

FUNCボタン、NEXTボタン、TTLinボタンの順に押す

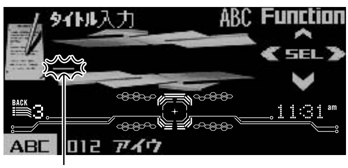
ご注意
「CD TEXT」に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)で「CD TEXT」を再生しているときは、タイトル入力モードに切り換えると、“入力できません”と表示され、タイトルを入力することはできません。(「CD TEXT」に収録されているCDタイトルは変更できません。)

3 タイトルを入力する

■ 入力する位置を選ぶ

◄または►ボタンを押す

►：右に移動させるとき
◄：左に移動させるとき

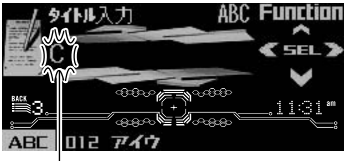


入力する位置でカーソルが点滅します。
10文字まで入力できます。

■ 入力する文字を選ぶ

▲または▼ボタンを押す

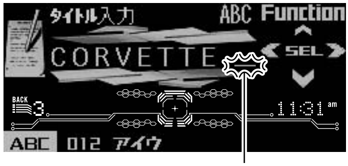
▲：次の文字を選ぶとき
▼：前の文字を選ぶとき



選んだ文字が点滅します。

押すボタン	選べる文字
ABCボタン (ABCボタンを押すごとに切り換わります。)	アルファベットの小文字(a～z) 空白 (_)
	アルファベットの大文字(A～Z) 数字 (0～9) 記号 (!、#、&など) 空白 (_)
012ボタン	数字 (0～9)、 記号 (!、#、&など) 空白 (_)
アイウボタン (アイウボタンを押すごとに切り換わります。)	カタカナ (ア～ン) 音引き (ー) 空白 (_)
	拗促音 (ァ、ョ、ッなど) 濁点、半濁点 空白 (_)

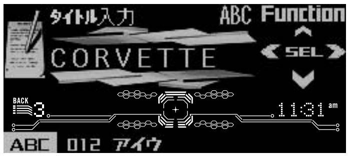
4 入力が終わったら10文字目を点滅させる



余ったところを空白にして、10文字目を点滅させます。

5 入力したタイトルを記憶させる

►ボタンを押す



入力位置の点滅が終わり、入力したタイトルが記憶されます。

6 タイトル入力モードを解除する

BANDボタンを押す

メモ

- タイトル入力中 (文字が点滅しているとき) にBANDボタンを押すと、タイトル入力モードが途中で解除されます。 (この場合、入力中のタイトルは記憶されません。)

マルチCD 11 CDの音質を調節する

COMP / DBE

大きな音と小さな音の音量差を小さくしたり、低音域を押し上げたりすることができます。

チェック ◆ COMP / DBE機能の付いたマルチCDプレーヤーで操作できます。

COMPについて

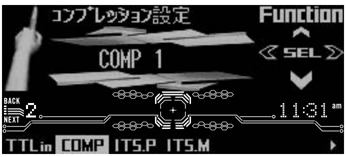
COMPとは、COMPression (コンプレッション) の略です。大きな音を抑え、小さな音を押し上げて、大きな音と小さな音の音量差を小さくする機能です。この機能は、小さな音が聞きとりにくいようなときにお使いになると便利です。

DBEについて

DBEとは、Dynamic Bass Emphasis (ダイナミック バス エンファシス) の略です。DBEは、車内で不足しがちな低音域を押し上げる機能です。

1 コンプレッション設定モードにする

FUNCボタン、NEXTボタン、COMPボタンの順に押す



現在のCOMP/DBEの状態が表示されます。

ご注意

COMP/DBE機能のないマルチCDを組み合わせたときは、“ No COMP ” が表示されて、操作ができません。

2 機能を選ぶ

COMPボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

COMP OFF → COMP 1 → COMP 2
→ COMP OFF → DBE 1 → DBE 2
→ COMP OFFに戻る

メモ

● COMP、DBEともに1より2の方が効果が大きくなります。

聞きたい曲だけ記憶させておく

記憶させた曲だけ再生する (☞ **マルチCD⑬ 66ページ**) ために、聞きたい曲をマルチCDにあらかじめ記憶させておきます。

ITS について

ITS とは、Instant Track Selection (インスタント トラック セレクション) の略です。

ITS は、聞きたい曲だけを記憶させておき、それを再生する機能です。

- ●曲の記憶はCDごとに行われます。CDを入れ換えても、そのCDの記憶は消えません。
- ●CD1枚につき99曲まで記憶することができます。(「CDX-P1250」「CDX-P650」以前に発売されたマルチCDでは、記憶できる曲が24曲目までになります。)
- ●ITSは、タイトル (☞ **マルチCD⑩ 62ページ**) と合わせてCD100枚分の記憶ができます。
- ●100枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。

1 記憶させたいCDを再生する

▲または▼ボタンを押す
(☞ **ここだけで❻ 28ページ**)

2 ITS 登録モードにする

FUNCボタン、NEXTボタン、ITS.Mボタンの順に押す

3 記憶させたい曲を選ぶ

◄または► ボタンを押す
(☞ **ここだけで❻ 29ページ**)

4 記憶させる

MEMOボタンを押す



約2秒間表示され、記憶したことを知らせます。

5 ITS 登録モードを解除する

BANDボタンを押す

メモ

- ●ITS登録モードでは、▲ボタンでも曲を登録することができます。

マルチCD 13 記憶させた曲だけ再生する

ITS再生

ITS登録 **(☞ マルチCD⑫ 65ページ)** で記憶させた曲だけを再生することができます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ (☞ マルチCD❹ 58ページ)

選んだ再生範囲内でITS再生が行われます。

2 ITSプレイ設定モードにする

FUNCボタン、NEXTボタン、ITS.Pボタンの順に押す

3 ITS再生をONにする

ITS.Pボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



ITS再生が始まり、記憶させた曲だけが再生されます。

メモ

- 手順1で選んだ再生範囲内に、記憶させた曲がない場合は、“ ITS empty ” が約2秒間表示されて、ITS再生は行われません。

マルチCD 14 記憶させた曲を1曲ずつ記憶から消す

ITS消去（1曲ずつ）

記憶させた曲を1曲ずつ消すことができます。

1 ITS再生をONにする

(☞ マルチCD⑬)

2 消去したい曲を再生する

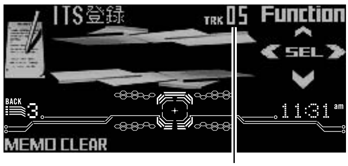
◄または►ボタンを押す
(☞ ここだけで❻ 29ページ)

3 ITS登録モードにする

FUNCボタン、NEXTボタン、ITS.Mボタンの順に押す

4 消去する

CLEARボタンを押す



次に記憶されている曲

再生していた曲が記憶から消去され、次に記憶されている曲が再生されます。

5 ITS登録モードを解除する

BANDボタンを押す

メモ

- 現在の再生範囲内に記憶させた曲がなくなった場合は、“ ITS empty ” が約2秒間表示されて、ITS再生がOFFになります。
- ITS登録モードでは、▼ボタンでも曲を消去することができます。

マルチCD 15

記憶させた曲をCDごとに記憶から消す

ITS消去（CDごと）

記憶させた曲をCDごとに消すことができます。

1 消去したいCDを再生する

▲または▼ボタンを押す
(☞ ここだけで❻ 28ページ)

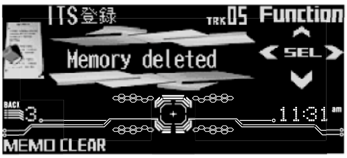
ITS再生がONになっているときは、ITS再生をOFFにしてください。**(☞ マルチCD⑬)**

2 ITS登録モードにする

FUNCボタン、NEXTボタン、ITS.Mボタンの順に押す

3 消去する

CLEARボタンを押す



約2秒間表示され、消去したことを知らせます。

4 ITS登録モードを解除する

BANDボタンを押す

メモ

● ITS登録モードでは、▼ボタンでもCDごとに曲を消去することができます。

マルチCD 16

タイトル表示を切り換える

タイトル表示／タイトルスクロール

「CD TEXT」**(☞ はじめに❷ 10ページ)** に対応しているマルチCD（「CDX-P670」など）で「CDTEXT」再生中に、ディスクタイトルのほかにトラックタイトルやディスクアーティストネームを表示させることができます。一度に表示可能なのは、全角で16文字、半角で32文字までです。また、隠れている文字はスクロールさせて見ることができます。

タイトル表示／タイトルスクロール（つづき）

チェック◆「CD TEXT」に対応しているマルチCD（「CDX-P670」など）の機能です。

1 タイトルモードにする

TITLEボタンを押す

2 表示したいタイトルを選ぶ

表示したいタイトルのボタンを押す

FORM 1、FORM 3

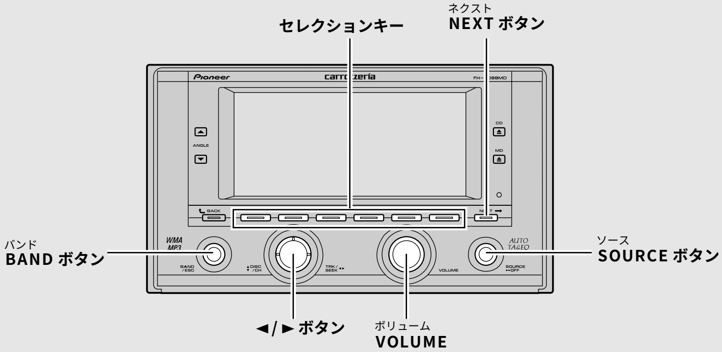
ボタン	表示内容
D.TTL	ディスクタイトル
D.ART	ディスクアーティストネーム
T.TTL	トラックタイトル
T.ART	トラックアーティストネーム
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

FORM 2

ボタン	表示内容
TTL1	ディスクタイトルとトラックタイトル
TTL2	ディスクタイトルとディスクアーティストネーム
TTL3	トラックタイトルとトラックアーティストネーム
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

メモ

● タイトルモードは、約8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。
● タイトルモードでは、▲/▼/◄/►ボタンでCDや曲を選ぶことはできません。
● FORM 2を選んでいる場合、一度に表示できるのは全角で12文字、半角で24文字までになります。
● トラックアーティストネームなどが記憶されていないCDで表示を切り換えると、“ No artist name ” などと表示されます。
● タイトルが入力されていないCDで表示を切り換えると、“ No title ” と表示されます。
● 初期設定で連続スクロール機能をONにした場合、タイトルが繰り返しスクロールして表示されます。タイトルの最初の16文字（全角）または32文字（半角）を表示させて、再びスクロールさせたいときは、SCROLLボタンを押してください。連続スクロールについては **(☞ 便利な機能⑲ 108ページ)**



テレビ 1 テレビのふだんの操作

ここだけの操作で、テレビを見ることができます。

1 ソースをテレビにする

SOURCE ボタンを押す

2 バンドを選ぶ

BAND ボタンを押す

3 チャンネルを選局する

◄ または ► ボタンを押す

4 音量を調節する

VOLUME を回す

5 テレビの受信をやめる

他のソースに切り換えるか、電源をOFFにする

メモ

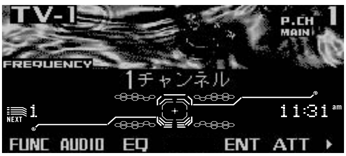
● 1～12 ボタンで、お好みのチャンネルの記憶や呼び出しを行うことができます。 **(☞ ラジオ❶❷ 52、53ページ)**

テレビについて

本機でのテレビ (例：「AVX-P777」) の基本的な操作方法を説明しています。テレビの機能について、詳しくは組み合わせたテレビの取扱説明書をご覧ください。

● 本機では、記憶させたチャンネルを一覧表示して見たいチャンネルを選ぶこともできます。 **(☞ テレビ❸)**

画面例)



テレビ 2 ファンクションモードの操作

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNCボタンを押す

2 操作したいモードを選ぶ

操作したいモードのボタンを押す



3 選んだモードを操作する

BSSM設定モード (BSSM)

BSSMボタンを押すごとにON/OFFします。BSSMが終了すると、自動的にチャンネルリストモードに切り換わります。

チャンネルリストモード (chList)

chListボタンを押すとチャンネルリストモード(☞ **テレビ❸**)に切り換わります。(チャンネルリスト機能に対応していないテレビでは、“ chList ” が表示されず、操作することができません。)

マルチプレックス選択モード (MPX)

MPXボタンを押すごとに次のように切り換わります。
Main → Sub → Main & Sub → Mainに戻る

4 ファンクションモードを解除する

BANDボタンを押す

メモ

- ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。
- BSSMとは、Best Stations Sequential Memory (ベスト ステーションズ シーケンシャル メモリー)の略です。

テレビ 3 チャンネル一覧から見たいチャンネルを呼び出す

チャンネルリスト

1〜12のボタンに記憶させたチャンネルの一覧 (チャンネルリスト) から、見たいチャンネルをさがすことができます。

チェック ◆ チャンネルリスト機能に対応しているテレビで操作できます。

1 チャンネルリストモードにする

FUNCボタン、chLISTボタンの順に押す



今受信しているチャンネルの番号の下に、“ _ ” が表示されます。

2 見たいチャンネルを表示する

NEXTボタンを押す

ボタンを押すごとに3チャンネルずつ表示が切り換わります。

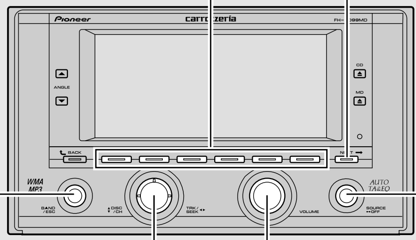
3 見たいチャンネルを選ぶ

見たいチャンネルと同じ番号のボタンを押す

選んだチャンネルを受信します。

メモ

- ▲/▼ボタンで聞きたい放送局を選び、►ボタンで選んだ放送局を受信することもできます。



DVD プレーヤーについて

本機でのDVDプレーヤー（例：マルチDVD「XDV-P9II」、1枚型DVD「SDV-P7」）の基本的な操作方法を説明しています。DVDプレーヤーの機能について、詳しくは組み合わせたDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

画面例)



DVD 1 DVDの ふだんの操作

ここだけの操作で、DVDプレーヤーでディスクを聞くことができます。

1 ソースを DVD にする

SOURCE ボタンを押す

2 マルチ DVD の場合、聞きたいディスクを選ぶ

▲または▼ボタンを押す

3 聞きたいチャプター/トラックを選ぶ（または早送り/早戻し）

◄または► ボタンを押す

4 音量を調節する

VOLUME を回す

5 DVD プレーヤーの再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源を OFF にする

メモ

● マルチDVDの場合、1～6ボタンで直接ディスクを選ぶこともできます。
(☞ マルチ CD❷ 57ページ)

DVD 2 ファンクションモードの操作

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNCボタンを押す

2 操作したいモードを選ぶ

操作したいモードのボタンを押す

DVD、ビデオCD再生時

RPT　D.LIST PAUSE ▶

TTLin ▶

CD再生時

RPT RDM SCAN　D.LIST PAUSE ▶

TTLin ITS.P ITS.M ▶

セレクションキーを切り換えるには、NEXTボタンを押します。

3 選んだモードを操作する

再生範囲切換モード (RPT) (DVD再生時)

RPTボタンを押すごとに次のように切り換わります。
Disc repeat → Chapter repeat → Title repeat → Disc repeatに戻る

リピートプレイ設定モード (RPT) (ビデオCD、CD再生時)

RPTボタンを押すごとにON/OFFします。

ランダムプレイ設定モード (RDM)

RDMボタンを押すごとにON/OFFします。

スキャンプレイ設定モード (SCAN)

SCANボタンを押すごとにON/OFFします。

ディスクリストモード (D.LIST)

ディスクリストモードの操作方法はマルチCDと同じです。 **(☞ マルチCD❽ 60ページ)**

ポーズ設定モード (PAUSE)

PAUSEボタンを押すごとにON/OFFします。

タイトル入力モード (TTLin)

タイトル入力モードの操作方法はマルチCDと同じです。 **(☞ マルチCD❿ 62ページ)**

ITSプレイ設定モード (ITS.P)

ITSプレイ設定モードの操作方法はマルチCDと同じです。 **(☞ マルチCD⓭ 66ページ)**

ITS登録モード (ITS.M)

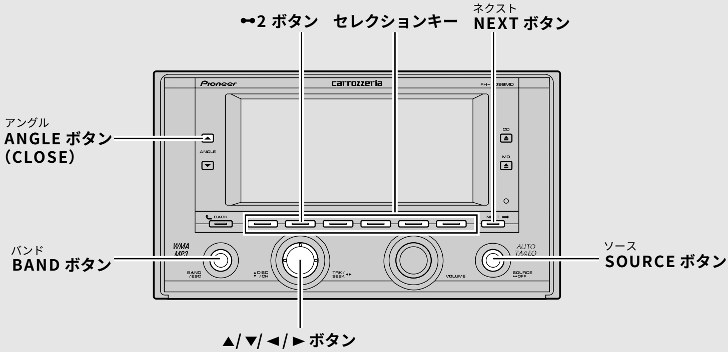
ITS登録モードの操作方法はマルチCDと同じです。 **(☞ マルチCD⓬ 65ページ)**

4 ファンクションモードを解除する

BANDボタンを押す

メモ

- ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、タイトル入力モード (TTLin)、ITS登録モード (ITS.M) を選んでいる場合、自動では解除されません。
- “ ITS.P ”“ ITS.M ” は、マルチDVDでCDを再生している場合に表示されます。
- “ D.LIST ” は、マルチDVDを使用している場合に表示されます。
- “ TTLin ” は、CDを再生している場合だけ操作できます。



音の調節 1 DSPについて

本機には、3-way ネットワークモード (NW) とスタンダードモード (STD) の2つの動作モードがあります。お好みに合わせて、モードを切り換えることができます。初期設定は、スタンダードモードになっています。 **(☞ はじめに❸ 12ページ)**

動作モードについて

● 3-way ネットワークモード (NW) は、高・中・低音域のそれぞれの音域 (バンド) を専用のアンプとスピーカーで再生する3-way マルチアンプ・マルチスピーカーシステムを構築することができます。3-way ネットワークモードには、マルチアンプ・マルチスピーカーシステムに不可欠なネットワーク機能やタイムアライメント機能があり、各音域の設定条件を厳密にコントロールすることができます。

● スタンダードモード (STD) は、フロント・リアの4スピーカーシステムまたはフロント・リア・サブウーファーの6スピーカーシステムを構築することができます。また、スタンダードモードには、リアルな音場を簡単に再現することができるSFC機能があります。

メモ

● 車のバッテリー交換などで、本機に電源が供給されなくなると、本機のマイコンは初期状態に戻ります。この場合、本機に記憶させたオーディオの調節内容がすべて消去されてしまいます。オーディオの調節が終了したら、再設定に手間のかかる調節内容を記録しておくことをおすすめします。**(☞ その他❾ 126ページ)**

● 3-way ネットワークモードを選んでいる場合、Auto TA&EQ **(☞ 音の調節㉒ 92ページ)** を行うことはできません。

動作モードのマークについて

この説明書では、説明をわかりやすくするため、以下のマークを使用しています。

NW: このマークは、3-way ネットワークモードにしかない機能および3-way ネットワークモードでの操作をあらわします。

STD: このマークは、スタンダードモードにしかない機能およびスタンダードモードでの操作をあらわします。

● マークが付いていない機能や操作は、2つのモードに共通です。

オーディオ調節のポイント

心地よい音の空間を手軽に演出したり、お好みに合わせてきめ細かく調節することができます。

3-way ネットワークモード NW

次の順に設定や調節をすることで、きめ細かくお好みに合わせた音場を創り出すことができます。

●音場の中心で聞く (POSI)
●左右の音量バランスを調節する (BAL)
●タイムアライメントを調節する (T.AL)
●ネットワークを調節する (NW)
●イコライザーカーブを選ぶ (EQ)
●イコライザーカーブを大まかに補正する (EQ1)
●イコライザーカーブを細かく調節する (EQ2)

スタンダードモード STD

心地よい音場を手軽に演出する

次の機能は、車種によって異なる音響特性に合わせた音場の演出を手軽に調節することができます。

●イコライザーカーブを選ぶ (EQ)
●音場の中心で聞く (POSI)
●イコライザーカーブを大まかに補正する (EQ1)

きめ細かくお好みに合わせて調節する

次の順に設定や調節をすることで、きめ細かくお好みに合わせた音場を創り出すことができます。

●音場の中心で聞く (POSI)
●前後左右の音量バランスを調節する (F/B)
●サブウーファーを使う (SW1、SW2)
●低い音をスピーカーから出力させない (HPF F、HPF R)
●オートタイムアライメント＆イコライジングを行う
●イコライザーカーブを選ぶ (EQ)
●イコライザーカーブを大まかに補正する (EQ1)
●イコライザーカーブを細かく調節する (EQ2)

便利な機能

次の機能は、お好みに合わせてお使いください。

●音響効果をかける (BBE) NW
●小音量時の音にメリハリをつける (LOUD)
●イメージに合った演奏会場を再現する (SFC) STD
●騒音に合わせて音量を変える (ASL)
●各ソースの音量の違いをそろえる (SLA)

音の調節 3 オーディオ調節モードの切り換えかた

音を調節するときは、オーディオ調節モードを切り換えて操作します。

1 オーディオ調節モードにする

AUDIO ボタンを押す

2 セレクションキーを切り換える

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

NW

BAL NW POSI T.AL EQ1 EQ2 ▸

↓

BBE LOUD ASL SLA ▸

↓

BAL NW POSI T.AL EQ1 EQ2 ▸ に戻る

STD

F/B LOUD SFC EQ1 EQ2 ASL ▸

↓

POSI T.AL A.EQ SW1 SW2 HPFF ▸

↓

HPFR SLA ▸

↓

F/B LOUD SFC EQ1 EQ2 ASL ▸ に戻る

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 オーディオ調節モードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

AUDIO ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

NW

BAL → NW → POSI → T.AL → EQ1 → EQ2 → BBE → LOUD → ASL → SLA → BAL に戻る

STD

F/B → LOUD → SFC → EQ1 → EQ2 → ASL → POSI → T.AL → A.EQ → SW1 → SW2 → HPF F → HPF R → SLA → F/B に戻る

メモ

- オーディオ調節モードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、イコライザー13バンド調節モード (EQ2) やタイムアライメント調節モード (T.AL)、ネットワーク調節モード (NW) を選んでいる場合、自動では解除されません。
- " SW2 " は、サブウーファーモードを ON にしているときだけ表示されます。
- ラジオの FM を聞いているときは、" SLA " は表示されません。

音の調節 4

音場の中心で聞く

リスニングポジションセレクター

乗車位置や人数に合わせて、聞く位置を選ぶことができます。(3-way ネットワークモードを選んでいる場合、“ ALL ” を選ぶことはできません。)

乗車位置について



Front Seat Left



Front Seat Right



Front Seat Right&Left



All Seat

1 リスニングポジションセレクターモードにする

NW

AUDIO ボタン、POSI ボタンの順に押す

STD

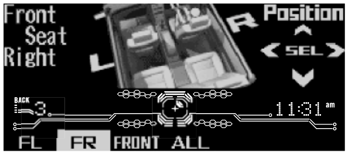
AUDIO ボタン、NEXT ボタン、POSI ボタンの順に押す

2 乗車位置を選ぶ

選びたい乗車位置のボタンを押す

同じボタンを押すごとに ON/OFF します。

ボタン	乗車位置
FL	左ハンドル車に運転者のみがいるとき
FR	右ハンドル車に運転者のみがいるとき
FRONT	同乗者が助手席にいるとき
ALL	同乗者が後部座席にいるとき STD



選んだ乗車位置が表示されます。

メモ

● ▲、▼、◄、または ► ボタンで乗車位置を選ぶこともできます。

ボタン	乗車位置
◄	左ハンドル車に運転者のみがいるとき
►	右ハンドル車に運転者のみがいるとき
▲	同乗者が助手席にいるとき
▼	同乗者が後部座席にいるとき STD

音の調節 5

前後左右の音量バランスを調節する

フェーダー / バランス

前後左右のスピーカーの音量バランスを調節することができます。(3-way ネットワークモードでは、前後のバランス調節はできません。)

NW

1 音量バランス調節モードにする

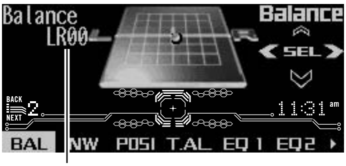
AUDIO ボタンを押す

音量バランス調節モード以外を選んでいる場合は、BAL ボタンを押す。

2 左右の音量バランスを調節する

◄ または ► ボタンを押す

► ：右を強めるとき
◄ ：左を強めるとき



左右のバランスは L25 ～ R25 の範囲で調節できます。

STD

1 音量バランス調節モードにする

AUDIO ボタンを押す

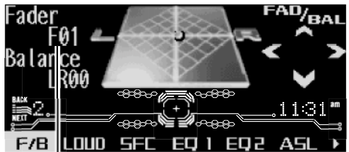
音量バランス調節モード以外を選んでいる場合は、F/B ボタンを押す。

2 音量バランスを調節する

■ 前後を調節する

▲ または ▼ ボタンを押す

▲ ：前を強めるとき
▼ ：後ろを強めるとき

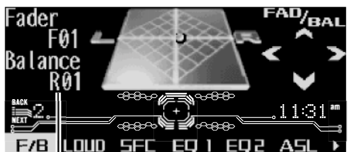


前後のバランスは F25 ～ R25 の範囲で調節できます。

■ 左右を調節する

◄ または ► ボタンを押す

► ：右を強めるとき
◄ ：左を強めるとき



左右のバランスは L25 ～ R25 の範囲で調節できます。

音の調節 6 タイムアライメントを選ぶ

タイムアライメント

3種類のタイムアライメントの中から、お好みのタイムアライメントを選ぶことができます。

タイムアライメントについて

タイムアライメントは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節する機能です。

1 タイムアライメント調節モードにする

確認

リスニングポジションセレクターモードで“ FL ”か“ FR ”を選んでいないと、タイムアライメントを調節することはできません。

NW

AUDIO ボタン、T.AL ボタンの順に押す

STD

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、T.AL ボタンの順に押す

2 タイムアライメントを選ぶ

選びたいタイムアライメントのボタンを押す

同じボタンを押すごとにON/OFF します。

ボタン	タイムアライメント
INTL	初期設定状態 (ご購入直後の状態)
A.TA	Auto TA&EQで作成したもの (☞ 音の調節㉒ 92 ページ) STD
CUSTM	お好みに合わせて調節したもの

メモ

- “ A.TA ” を選ぶと、ディスプレイに“ AUTO TA ” が表示されます。
- Auto TA&EQを行っていないときは、“ A.TA ” を選ぶことはできません。
- 3-way ネットワークモードを選んでいるときは、“ A.TA ” を選ぶことはできません。

音の調節 7 タイムアライメントを調節する

タイムアライメント調節

タイムアライメントを厳密に調節することができます。調節した内容は、“ CSTM ” に自動的に記憶されます。

1 タイムアライメント調節モードにして、タイムアライメントを選ぶ

調節の元になるタイムアライメントを選ぶ (☞ 音の調節❻)

2 各スピーカーの距離を調節する

■ 調節するスピーカーを選ぶ

◀ または ▶ ボタンを押す

NW

High Left、High Right、Mid Right、Mid Left、Low Left、Low Right の中から選ぶことができます。

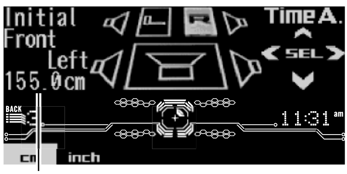
STD

Front Left、Front Right、Rear Right、Rear Left、Sub. W (Subwoofer) の中から選ぶことができます。

■ 距離を調節する

▲ または ▼ ボタンを押す

▲：距離を遠くするとき
▼：距離を近くするとき



0.0 cm 〜 400.0 cm の範囲で調節できます。

3 タイムアライメント調節モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

- サブウーファーモードをOFFにしているときは、“ Sub. W ” には切り換わりません。

音を調節する

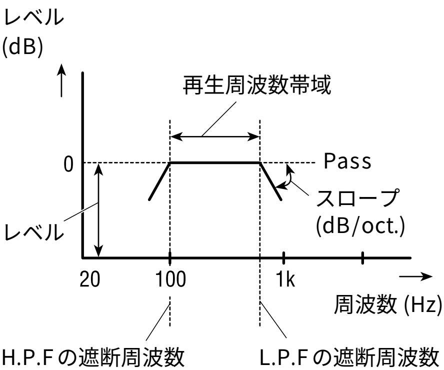
音の調節 8 ネットワークを調節する前に NW

ネットワークについて

ネットワーク機能はオーディオ信号を各音域ごとに分割し、それぞれの音域を各音域専用のスピーカーユニットで再生します。各スピーカーユニットの特性に合わせ、再生周波数帯域 (ローパスフィルターやハイパスフィルター) 、レベル、位相などを厳密に調節することができます。

調節項目

ネットワーク機能は、以下の項目の調節が可能です。接続した各スピーカーユニットの再生周波数帯域や特性に合うよう調節してください。



再生周波数帯域

ハイパスフィルター (H.P.F.) やローパスフィルター (L.P.F.) の遮断周波数調節は、各スピーカーユニットの再生周波数帯域を設定することができます。

- ●H.P.F. は、設定した周波数以下の周波数 (低音域) をカットし、高い周波数だけを通すフィルターです。
- ●L.P.F. は、設定した周波数以上の周波数 (高音域) をカットし、低い周波数だけを通すフィルターです。

レベル

スピーカーユニット間の再生レベルを補正することができます。

スロープ

H.P.F/L.P.Fのスロープ (フィルター特性の減衰量の傾き) によって、スピーカーユニット間の音のつながりを調節することができます。

- ●スロープは、周波数が1オクターブ高く (または低く) なったときに、信号が何dB減衰するかをあらわす値です (単位：dB/oct.)。傾きを急にすると、信号が減衰する割合が大きくなります。

位相

各スピーカーユニットの入力信号に対する位相 (正相/逆相) を切り換えることができます。スピーカー間の音のつながりが悪いときは、位相を切り換えてみてください。スピーカー間の音のつながりが良くなる場合があります。

ネットワーク調節のポイント

遮断周波数調節のポイント

低音域スピーカーをリアトレイに設置した場合、“ L LPF ” の遮断周波数を高く設定すると、低音が分離して後ろから聞こえてくるようになります。“ L LPF ” の遮断周波数は、100 Hz以下に設定することをお勧めします。

中音域や高音域のスピーカーは、低音域のスピーカーより耐入力が低く設定されていることが一般的です。“ M HPF ” や “ H HPF ” の遮断周波数を必要以上に低く設定すると、強い低音信号の入力によってスピーカーが破損する恐れがありますので、ご注意ください。

レベル調節のポイント

中音域には、多くの楽器の基本周波数が含まれています。最初に中音域のレベル調節を行い、高音域、低音域の順でレベルを調節することをお勧めします。

スロープ調節のポイント

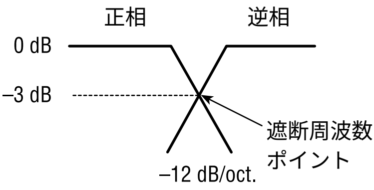
スロープの絶対値を小さく (傾きをゆるやかに) すると、隣り合うスピーカーユニット間の干渉によって周波数特性が影響を受けやすくなります。

スロープの絶対値を大きく (傾きを急に) すると、スピーカーユニット間の音のつながりが悪くなり、音が分離して聞こえるようになります。

スロープを 0 dB/oct. (Pass) に設定すると、オーディオ信号はフィルター回路を回避するため、フィルター回路は効果がなくなります。

位相調節のポイント

両側のフィルター共に遮断周波数ポイントのスロープ設定値を－12 dB/oct. に設定した場合、フィルターの遮断周波数において位相が 180 度反転します。この場合、位相を反転すると、音のつながりが良くなります。



スピーカーユニットにミュートをかける

各スピーカーユニット (フィルター) をミュートすることができます。ミュートしたスピーカーユニット (フィルター) からは、音が出なくなります。

- ●選んだスピーカーユニット (フィルター) をミュートした場合、“ MUTE ” が点滅し、何も調節できなくなります。
- ●ミュートしたスピーカーユニット (フィルター) 以外のスピーカーユニット (フィルター) は調節することができます。

1 ネットワーク調節モードにする

AUDIO ボタン、NW ボタンの順に押す

2 ミュートするスピーカーユニット (フィルター) を選ぶ

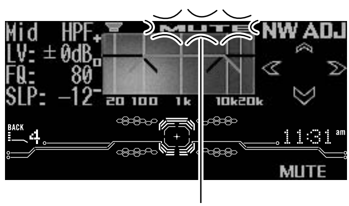
ミュートしたいスピーカーユニット (フィルター) のボタンを押す

ボタン	スピーカーユニット (フィルター)
L LPF	低音域スピーカーのLPF
M HPF	中音域スピーカーのHPF
M LPF	中音域スピーカーのLPF
H HPF	高音域スピーカーのHPF

3 選んだスピーカーユニット (フィルター) をミュートする

MUTE ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFF します。



“ MUTE ” が点滅します。

音の調節 9

ネットワークを調節する NW

ネットワーク調節

各スピーカーユニットの再生周波数帯域、レベル、位相などを調節することで、各スピーカーユニットの特性に合わせてネットワークを厳密に設定することができます。

1 ネットワーク調節モードにする

AUDIOボタン、NWボタンの順に押す

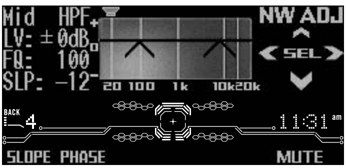
2 調節するスピーカーユニット(フィルター)を選ぶ

調節したいスピーカーユニット(フィルター)のボタンを押す

ボタン	スピーカーユニット(フィルター)
L LPF	低音域スピーカーのLPF
M HPF	中音域スピーカーのHPF
M LPF	中音域スピーカーのLPF
H HPF	高音域スピーカーのHPF

3 遮断周波数を調節する

◄または►ボタンを押す



■ **L LPF、M HPF を選んだとき**

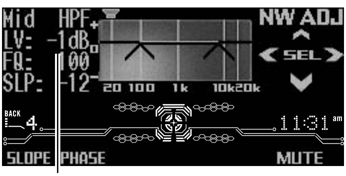
31.5 ↔ 40 ↔ 50 ↔ 63 ↔ 80 ↔ 100 ↔ 125 ↔ 160 ↔ 200 (Hz)

■ **M LPF、H HPF を選んだとき**

1.6 ↔ 2 ↔ 2.5 ↔ 3.15 ↔ 4 ↔ 5 ↔ 6.3 ↔ 8 ↔ 10 ↔ 12.5 ↔ 16 (kHz)

4 レベルを調節する

▲または▼ボタンを押す

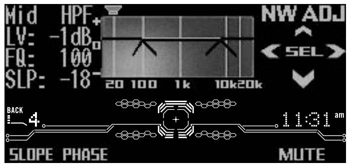


0 dB ～ －24 dB の範囲で調節できます。(“L LPF”を選んでいる場合は、＋6 dB ～－24 dBの範囲で調節できます。)

5 スロープを調節する

SLOPEボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



■ **L LPFを選んだとき**

－12 → －18 → －24 → －30 → －36 (dB/oct.)

■ **M HPFを選んだとき**

Pass (0) → －6 → －12 → －18 →－24 (dB/oct.)

■ **M LPFを選んだとき**

Pass (0) → －6 → －12 → －18 →－24 (dB/oct.)

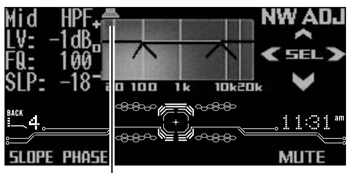
■ **H HPFを選んだとき**

－6 → －12 →－18 →－24 (dB/oct.)

6 位相を切り換える

PHASEボタンを押す

ボタンを押すごとに位相が切り換わります。



正相(Normal：)か逆相(Reverse：)かが表示されます。

7 ネットワーク調節モードを解除する

BANDボタンを押す

サブウーファーを使う STD

本機では、RCA出力端子に接続したサブウーファーを調節することができます。

位相切り換えについて

サブウーファーから出力される音の中には、フロント/リアスピーカーから出力される音と同じ周波数帯域のものが含まれています。車内条件により、これらの音の位相どうしが反転（干渉）すると、その周波数帯域が打ち消し合ってしまうことがあります。この現象を防ぐものが、サブウーファーの位相切り換えです。車内条件によって、位相の正相（フロント/リアスピーカーと同時に出力される）が良いか、逆相（フロント/リアスピーカーとタイミングをずらして出力される）が良いかを選んで設定してください。

遮断周波数について

選んだ周波数より低い周波数の音域がサブウーファーから出力されます。

スロープについて

スロープ（減衰の傾き）を調節することにより、サブウーファーとフロント/リアスピーカーの音のつながりを調整することができます。

1 サブウーファーモードにする

AUDIOボタン、NEXTボタン、SW1ボタンの順に押す

2 サブウーファーをONにする

SW1ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



3 位相を切り換える

◄または► ボタンを押す

►：Normal（正相）
◄：Reverse（逆相）



音の調節 10 サブウーファーを使う STD (つづき)

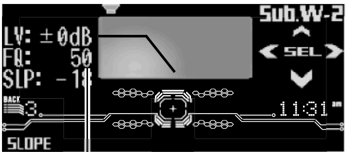
4 サブウーファー調節モードにする

SW2 ボタンを押す

5 遮断周波数を調節する

◄ または ► ボタンを押す

►：高い周波数を選ぶとき
◄：低い周波数を選ぶとき

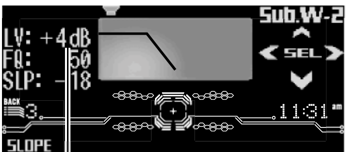


50、63、80、100、125、160、200（Hz）の中から選ぶことができます。

6 レベルを調節する

▲ または ▼ ボタンを押す

▲：レベルを大きくするとき
▼：レベルを小さくするとき

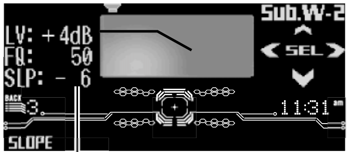


レベルは－24～＋6の範囲で調節できます。

7 スロープを調節する

SLOPE ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



－12 → －18 → －6 (dB/oct.)

メモ

● サブウーファーを OFF にしたときは、サブウーファー調節モード (SW2) には、切り換わりません。

音の調節 11 低い音を出力させない STD

ハイパスフィルター (HPF)

ハイパスフィルターをONにすると、選んだ周波数より低い周波数の音が各スピーカーから出力されなくなります。フロントスピーカー、リアスピーカーのそれぞれでお好みの周波数を設定することができます。

ハイパスフィルター (HPF) について

ハイパスフィルターは、設定した周波数から下の音域（低域）をカットして、高域を通すフィルターです。ハイパスフィルターをONにすることにより、サブウーファーとの音のつながりを調節することができます。

遮断周波数について

選んだ周波数より高い音域がフロントまたはリアスピーカーから出力されます。

スロープについて

スロープ (減衰の傾き) を調節することにより、サブウーファーとフロント/リアスピーカーの音のつながりを調整することができます。

ミュートについて

フロント / リアスピーカー (フィルター) をミュートすることができます。ミュートしたスピーカーからは音は出ません。

フロントスピーカーを調節するとき

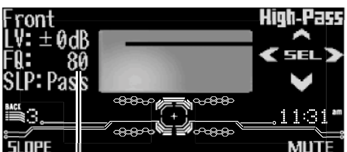
1 フロントハイパスフィルター調節モードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、HPF Fボタンの順に押す

2 フロントハイパスフィルターの遮断周波数を選ぶ

◄ または ► ボタンを押す

►：高い周波数を選ぶとき
◄：低い周波数を選ぶとき

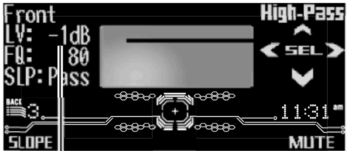


50、63、80、100、125、160、200（Hz）の中から選ぶことができます。

3 フロントハイパスフィルターのレベルを選ぶ

▲ または ▼ ボタンを押す

▲：レベルを大きくするとき
▼：レベルを小さくするとき

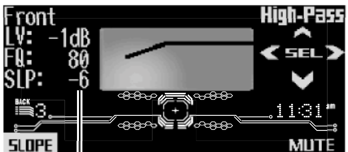


レベルは－24～0の範囲で調節できます。

4 フロントハイパスフィルターのスロープを調節する

SLOPE ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



－6 → －12 → Pass (0) (dB/oct.)

メモ

● MUTEボタンを押すごとにミュートがON/OFFします。

音の調節 11 低い音を出力させない STD (つづき)

ハイパスフィルター (HPF)

リアスピーカーを調節するとき

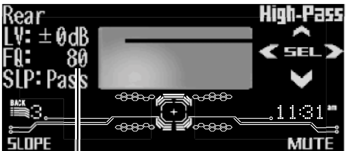
1 リアハイパスフィルター調節モードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタンを 2 回、HPF R ボタンの順に押す

2 リアハイパスフィルターの遮断周波数を選ぶ

◄ または ► ボタンを押す

► ：高い周波数を選ぶとき
◄ ：低い周波数を選ぶとき

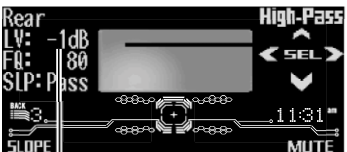


50、63、80、100、125、160、200（Hz）の中から選ぶことができます。

3 リアハイパスフィルターのレベルを選ぶ

▲ または ▼ ボタンを押す

▲ ：レベルを大きくするとき
▼ ：レベルを小さくするとき

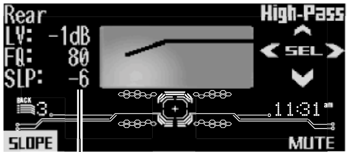


レベルは－24～0 の範囲で調節できます。

4 リアハイパスフィルターのスロープを調節する

SLOPE ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



－6 ➞ －12 ➞ Pass (0) (dB/oct.)

メモ

● MUTE ボタンを押すごとにミュートが ON/OFF します。

音の調節 12 オートイコライザーをON/OFFする STD

オートイコライザー

Auto TA&EQ (☞ **音の調節㉒ 92ページ**) で作成したオートイコライザーカーブをON/OFFすることができます。

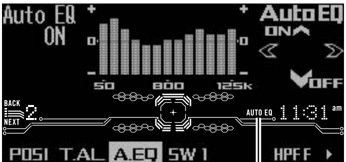
1 オートイコライザーモードにする

AUDIOボタン、NEXTボタン、A.EQボタンの順に押す

2 オートイコライザーをON/OFFする

A.EQボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



オートイコライザーをONにすると、表示されます。

メモ

● Auto TA&EQ (☞ **音の調節㉒ 92ページ**) を行っていないときは、オートイコライザーモードは操作できません。

音の調節 13 イコライザーカーブを選ぶ

あらかじめ用意されたイコライザーカーブの中から、お好みのイコライザーカーブを選ぶことができます。

CSTMについて

“CSTM1”と“CSTM2”は、お好みに合わせて調節することができます。(☞ **音の調節⑮ 86ページ**)

FLATについて

イコライザーによる音の補正はされていません。設定したイコライザーカーブと交互に切り換えることで、設定したイコライザーカーブの効果を確認することができます。

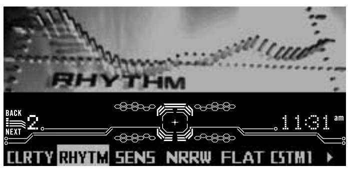
1 イコライザーモードにする

EQボタンを押す

2 イコライザーカーブを選ぶ

選びたいイコライザーカーブのボタンを押す

ボタン	イコライザーカーブ
CLRTY	CLARITY
RHYTM	RHYTHM
SENS	SENSITIVE
NRRW	NARROW
FLAT	FLAT
CSTM1	CUSTOM1
CSTM2	CUSTOM2



選んだイコライザーカーブが表示されます。

メモ

● “CSTM2”は、NEXTボタンを押して“CSTM2”を表示させてから、手順2の操作で選びます。

● ◄または►ボタンでイコライザーカーブを選ぶこともできます。

● イコライザーモードは、約8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

音を調節する

音の調節 14 イコライザーカーブを大まかに補正する

ニュアンスコントロール

呼び出したイコライザーカーブは、全体的なバランスをくずさずに、大まかに強めたり弱めたりすることができます。

1 調節したいイコライザーカーブを選ぶ (☞ 音の調節⑬ 85ページ)

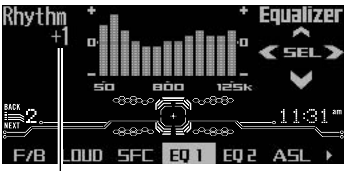
2 イコライザー調節モードにする

AUDIO ボタン、EQ1 ボタンの順に押す

3 イコライザーカーブを調節する

▲または▼ボタンを押す

▲：強めるとき
▼：弱めるとき



－５～＋６の範囲で調節できます。

(“RHYTM”,“CSTM1”、および“CSTM2”は、－６～＋６の範囲で調節できます。ただし、“CSTM1”と“CSTM2”に記憶されているカーブによっては、調節できる範囲が狭くなることがあります。)

メモ

- ◄または►ボタンでイコライザーカーブを選ぶこともできます。
- “FLAT”やすべての周波数が“0”に設定されているイコライザーカーブでは、ニュアンスコントロールすることはできません。

音の調節 15 イコライザーカーブ

お好みに合わせて、イコライザーカーブの周波数レベルを細かく調節することができます。

CSTM1 について

“CSTM1”には、お好みに合わせて調節したイコライザーカーブがソースごとに記憶されます。(内蔵CDとマルチCDは、同じ設定になります。)

“CSTM2”以外のカーブを選んでいるときに調節すると、“CSTM1”に記憶されます。

CSTM2 について

“CSTM2”は、すべてのソースに共通したイコライザーカーブで、お好みに合わせて調節することができます。

“CSTM2”を選んでいるときに調節すると、調節したカーブが新しい“CSTM2”として記憶されます。

1 調節したいイコライザーカーブを選ぶ (☞ 音の調節⑬ 85ページ)

2 イコライザー13バンド調節モードにする

AUDIO ボタン、EQ2 ボタンの順に押す

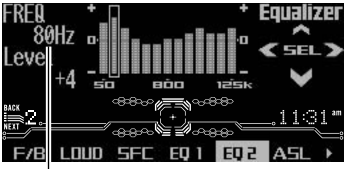
を細かく調節する

イコライザー調節

3 各周波数ごとのレベルを調節する

■ 周波数を選ぶ

◄ または ► ボタンを押す



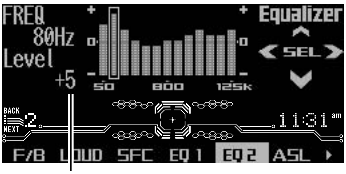
選んだ周波数が表示されます。

選べる周波数（Hz）
50、80、125、200、315、500、800、1.25k、2k、3.15k、5k、8k、12.5k

■ レベルを調節する

▲ または ▼ ボタンを押す

▲：強めるとき
▼：弱めるとき



－6～＋6の範囲で調節できます。

調節したイコライザーカーブは、そのまま保存されます。

4 イコライザー 13 バンド調節モードを解除する

BAND ボタンを押す

音の調節 16

音響効果をかける

NW

BBE

お好みに合わせて BBE の音響効果をかけることができます。

BBE について

BBE は、音楽再生時に発生する高調波成分の遅延や振幅の狂いを、位相補正と高域ブーストを組み合わせて修復することで、原音に極めて近い再生音にすることができます。このため、鮮明度が高く、ライブ演奏に近い自然な臨場感を再現することができます。

1 BBE モードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、BBE ボタンの順に押す

2 BBE を ON にする

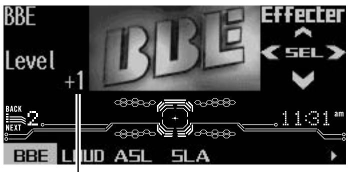
BBE ボタンを押す

ボタンを押すごとに ON/OFF します。

3 BBE のレベルを調節する

▲ または ▼ ボタンを押す

▲：レベルを大きくするとき
▼：レベルを小さくするとき



レベルは－4～＋4の範囲で調節できます。

メモ

● この製品は BBE サウンド・インコーポレーテッドからの実施権に基づき製造されています。この製品は米国 BBE 社の所有する特許 USP4638258 と 4482866 を使用しています。BBE と BBE のシンボルは、BBE Sound, Inc. の登録商標です。

音の調節 17 小音量時の音にメリハリをつける

ラウドネス

小さな音量で聞いているときの、低・高音の不足感を補正して、メリハリのある音にすることができます。

1 ラウドネスモードにする

NW

AUDIOボタン、NEXTボタン、LOUDボタンの順に押す

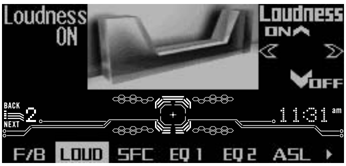
STD

AUDIOボタン、LOUDボタンの順に押す

2 ラウドネスをONにする

LOUDボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



音の調節 18 イメージに合った演

SFCでは、実際にその演奏会場にいるかのようなリアルな音場を再現することができます。また、BBEではレベルを調節することができます。

SFCについて

SFCとは、Sound Field Control (サウンドフィールド コントロール) の略です。SFCによって、車室内にリアルな音場を再現することができます。本機には、STUDIO、JAZZ、CLUBといった3種類の音場空間を再現するプログラムが用意されています。

BBEについて

BBEは、音楽再生時に発生する高調波成分の遅延や振幅の狂いを、位相補正と高域ブーストを組み合わせて修復することで、原音に極めて近い再生音にすることができます。このため、鮮明度が高く、ライブ演奏に近い自然な臨場感を再現することができます。

1 SFCモードにする

AUDIOボタン、SFCボタンの順に押す

2 音場プログラムを選ぶ

選びたい音場プログラムのボタンを押す

同じボタンを押すごとにON/OFFします。

ボタン	音場プログラム
STUDIO	Studio
JAZZ	Jazz Club
CLUB	Club
BBE	BBE



選んだ音場プログラムが表示されます。

奏会場を再現する STD

SFC / BBE

BBEを選ぶ場合

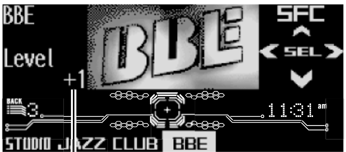
1 BBEを選ぶ

AUDIOボタン、SFCボタン、BBEボタンの順に押す

2 BBEのレベルを調節する

▲または▼ボタンを押す

▲：レベルを大きくするとき
▼：レベルを小さくするとき



レベルは－４～＋４の範囲で調節できます。

メモ

- この製品はBBEサウンド・インコーポレーテッドからの実施権に基づき製造されています。この製品は米国BBE社の所有する特許USP4638258と4482866を使用しています。BBEとBBEのシンボルは、BBE Sound, Inc. の登録商標です。

音の調節 19 騒音に合わせて音量を変える

ASL

騒音に合わせて、自動的に音量が変わるようにすることができます。

ASLについて

ASLとは、Automatic Sound Levelizer (オートマチック サウンド レベライザー) の略です。ASLは、走行速度や道路状況によって変化する車内の騒音を検出して、騒音が大きくなると自動的に音量を大きくする機能です。

1 ASLモードにする

NW

AUDIOボタン、NEXTボタン、ASLボタンの順に押す

STD

AUDIOボタン、ASLボタンの順に押す

2 ASLをONにする

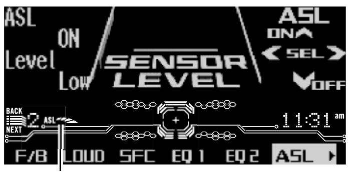
ASLボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。

3 ASLの感度を選ぶ

◄または► ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。
Low ⟷ Mid-Low ⟷ Mid ⟷ Mid-High ⟷ High



ASLがONのときに表示され、ASLの効果量をバーで表示します。

メモ

- 音量が十分にあるときは、騒音が大きくても音量の上げ幅は小さくなります。
- この機能が働いて音量が上がりすぎたとき、音が歪むことがあります。そのときはVOLUMEを左に回して音量を下げてください。

音の調節 20 各ソースの音量の違いをそろえる

SLA

ソースを切り換えたとき音量に違いが出ないように、FMの音量を基準にして各ソースの音量をそろえることができます。

1 FMを受信し、FMの音量を確かめる

SOURCEボタンを押す
(☞ ここだけで❺ 26ページ)

2 調節したいソースに切り換える

SOURCEボタンを押す
(☞ ここだけで❶ 18ページ)

3 SLAモードにする

NW

AUDIOボタン、NEXTボタン、SLAボタンの順に押す

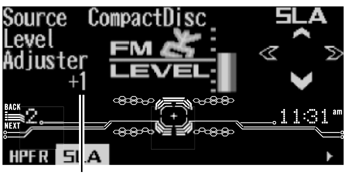
STD

AUDIOボタン、NEXTボタンを2回、SLAボタンの順に押す

4 レベルを調節する

▲または▼ボタンを押す

▲：レベルを大きくするとき
▼：レベルを小さくするとき



−4〜＋4の範囲で調節できます。

メモ

- SLAとはSource Level Adjuster (ソース レベル アジャスター) の略です。
- FMの音量を基準にほかのソースとの音量差を調節するため、FMを聞いているときは、SLAモードに切り換えることはできません。
- AM、テレビ、CD、DVD、MD、External (エクスターナルユニット)、AUX (外部機器) のそれぞれの音量差を調節することができます。なお、内蔵CDとマルチCD、External 1とExternal 2、およびAMと交通情報 **(☞ 便利な機能❷ 95ページ)** は同じ設定になります。

音の調節 21 オートタイムアライメント&イコライジングを行う前に STD

Auto TA&EQ

Auto TA&EQ (オートタイムアライメント&イコライジング) を行う前に必ずお読みください。

⚠ 警告

走行中にAuto TA&EQを行わない

禁止

自動車が走行中にAuto TA&EQを行わないでください。Auto TA&EQ機能は車室内の音響特性を測定するために、スピーカーから大音量の計測音を出すことがあります。この場合、運転の妨げになり事故の原因となることがあります。

スピーカー破損防止について

次の状態でAuto TA&EQを行うと、スピーカーが破損する恐れがあります。Auto TA&EQを行う前に、よく確認してください。

- スピーカーの接続を誤っている場合
(例：サブウーファー出力にリアスピーカーを接続している場合)
- スピーカーの耐入力を超える出力のパワーアンプを接続している場合

Auto TA&EQ 機能について

- 車室内空間は、その広さや複雑な形状、材質により、ホームオーディオに比べ、一般的に音響特性が大きく乱れています。このような車室内の音響特性を補正するためにイコライザーを使用しますが、測定器などを使用せずに設定するのはかなり困難な作業になります。
- 本機のAuto TA&EQ機能は、車室内の音響特性を自動的に測定し、そのデータに基づいて、車室内の音響特性が乱れの少ない滑らかな特性に近づくように自動的に補正します。（イコライザーカーブを呼び出したときは、Auto TA&EQにより乱れの少ない滑らかな特性になったうえでイコライザーカーブが設定されますので、より効果的になります。）また、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を自動的に測定し、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調整します。

Auto TA&EQを行う前にお読みください

- Auto TA&EQは、なるべく静かなところで、車のエンジンおよびエアコンやヒーターを止めて行ってください。また、携帯電話や自動車電話などを車載している場合は、電話を車外へ持ち出すか電源を切ってからAuto TA&EQを行ってください。計測音以外の音（車周辺の騒音、エンジン音、電話の着信音など）によって、車室内の音響特性が正しく測定できないことがあります。
- Auto TA&EQは、必ず付属のマイクを使用して行ってください。付属のマイク以外のマイクでは、Auto TA&EQが実行できなかったり、車室内の音響特性が正しく測定できません。
- フロントスピーカーが接続されていない場合は、Auto TA&EQが実行できません。
- フロントスピーカーをミュートしている場合は、Auto TA&EQが実行できません。
- 入力レベルコントロール付きのパワーアンプを接続している場合、パワーアンプの入力レベルコントロールを下げていると、Auto TA&EQが実行できない場合があります。パワーアンプの入力レベルコントロールは推奨位置に合わせてください。
- ローパスフィルター付きのパワーアンプを接続している場合、パワーアンプのローパスフィルターはOFFにして測定してください。また、パワードサブウーファー内蔵のローパスフィルターは、遮断周波数を最も高い値に設定してください。
- Auto TA&EQ測定時に算出したタイムアライメントの値は、次の場合に実際の距離と異なることがありますが、計測状況によりコンピューターが算出した正確な遅延時間をもとに設定された距離です。そのままの値でご使用ください。
  ＊車室内の反射音が直接音より強く、かつ遅延を生じている場合。
  ＊パワードサブウーファーや外部アンプのローパスフィルターの影響により、低音に遅延が生じている場合。
- Auto TA&EQを行うと、各モードの内容が次のように変更されます。
  ＊前後左右の音量バランス調節（フェーダー/バランス）の設定がリセットされ、初期設定に戻ります。
  ＊イコライザーカーブは、フラット(FLAT)になります。
  ＊リスニングポジションセレクターは、Front Rightに設定されます。（ただし、Front Leftに設定していたときだけは、Front Leftのままになります。）
  ＊サブウーファーを接続している場合、サブウーファー出力とリアハイパスフィルターの設定が調節されます。（サブウーファー出力をOFFにしていても、自動的にONになり調節されます。）

Auto TA&EQの調節内容について

- 一度Auto TA&EQを行ったあとに、再度Auto TA&EQを行うと、前のAuto TA&EQの調節内容は消去されます。

音の調節 22

オートタイムアライメント&イコライジングを行う

STD

車室内の音響特性を自動的に計測して、車室内の音響特性を最適に自動補正することができます。

1 車の環境を整える

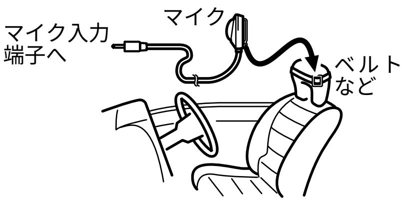
●静かな所に車を停車させる

●ドア、窓、サンルーフなどを閉める

●車のエンジンを停止させる

2 マイクをセットする

ベルトなどを使用して、運転席のヘッドレストの中央に付属のマイクを前向きに固定する



ご注意

マイクの取付位置が悪いと、測定音が大きくなったり測定時間がかかったりして、車のバッテリーが上がる恐れがあります。マイクは必ず指定の位置に取り付けてください。

3 車のエンジンスイッチをACC またはON にする

ご注意

車のエアコンやヒーターがON になっている場合は、OFF にしてください。エアコンやヒーターのファンの騒音によってAuto TA&EQ が実行できないことがあります。

4 本機の電源を入れる

SOURCE ボタンを押す

5 乗車位置を決定する

リスニングポジションセレクターモードにして、マイクをセットした座席を乗車位置に設定する。

(☞ 音の調節❹ 75 ページ)

メモ

● 乗車位置をFront Seat Right またはFront Seat Left 以外に設定したときは、Auto TA&EQ を始めると、強制的にFront Seat Right に再設定されます。

6 本機の電源を切る

SOURCE ボタンを1 秒以上押す

7 Auto TA&EQ 設定モードにする

⊷ 2 ボタンを2 秒以上押す



フロントパネルが自動的に開きます。

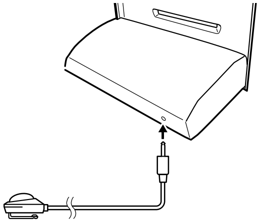
メモ

● ⊷ 2 ボタンの位置が分からない場合は **(☞ 音の調節❶ 72 ページ)**

● リモコンのAUDIO ボタンを2 秒以上押すことでも、Auto TA&EQ 設定モードにすることができます。

8 マイクを本機に接続する

付属のマイクをマイク入力端子に接続する



メモ

- フロントパネルがシフトレバーに当たったり、シフトレバーがマイクを接続する妨げになる場合は、EXITボタンを押して、Auto TA&EQモードをいったん解除します。
  ANGLEボタンを押して、マイクを接続できる角度に調節したあとに、マイクをマイク入力端子に接続します。そして、もう一度Auto TA&EQモードにしてから、手順9に進んでください。

9 Auto TA&EQを始める

STARTボタンを押す

STOPボタンを押すと中止します。
EXITボタンを押すとAuto TA&EQ設定モードが途中解除され、電源がOFFになります。



ご注意

STARTボタンを押してAuto TA&EQを始めてから測定が終了するまでに、約4分かかります。測定時間は、周囲の騒音状態、車両形状、スピーカーの数などにより変わります。

10 車外に出る

10秒のカウントダウンが始まるので、10秒以内に車外に出て、ドアを閉める

計測音（ノイズ）が各スピーカーから出力され、Auto TA&EQ が始まります。

11 Auto TA&EQが自動的に終了する



Auto TA&EQの操作が終わったらセットしたマイクを取り外し、BANDボタンを押して電源を切り、ANGLE（CLOSE）ボタンを押してフロントパネルを元の位置に戻してください。

ご注意

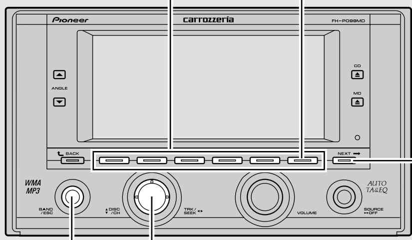
ANGLE（CLOSE）ボタンを押す前に、マイクをマイク入力端子から取り外してください。マイクを接続したままANGLE（CLOSE）ボタンを押すと、警告音が鳴り、フロントパネルは閉まりません。

注意

- フロントパネルの開閉動作中は、指などを挟まないようにご注意ください。
- フロントパネルを開けたまま、走行しないでください。急ブレーキ時にフロントパネルに体が当たったりして、思わぬケガをする恐れがあります。

メモ

- Auto TA&EQを途中でやめたくなったときはEXITボタンまたはBANDボタンを押してください。AUTO TA&EQ設定モードを強制的に解除して、電源OFFになります。
- マイクをセットする位置により、Auto TA&EQの調節内容が変わります。
  お好みにより、助手席にセットすることもできます。
- マイクはグローブボックスなどに、大切に保管してください。直射日光の当たる場所に長時間放置すると、高温による変形、変色、故障の原因になる恐れがあります。



便利な機能 1 瞬時に音量を小さくする

アッテネーター

車内の会話が聞き取りにくいときに、瞬時に音量を小さくすることができます。

1 瞬時に音量を小さくする

ATT ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFF します。



アッテネーターがONのときに反転表示します。

アッテネーターがONのときは、音量が約1/10になります。

交通情報を受信する

トラフィックインフォメーション

AM 1,620 kHzまたは1,629 kHzの交通情報を、簡単に受信することができます。

1 “ TI ” を表示する

NEXTボタンを押す

“ TI ” が表示されるまで、NEXTボタンを押して切り換える。



2 交通情報を受信する

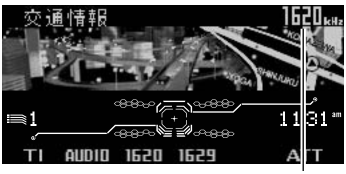
TIボタンを押す

交通情報を受信します。

3 放送に合わせて周波数を切り換える

聞きたい周波数のボタンを押す

ボタン	周波数
1620	1,620 kHz
1629	1,629 kHz



受信周波数

4 交通情報の受信をやめる

TIボタンを押す

交通情報を受信する前の状態に戻ります。

メモ

- この機能は、どのソースからでも操作できます。
- 交通情報を受信しているときに音量を調節すると、交通情報用の音量として設定することができます。
- ◄ボタンで1,620 kHzに、►ボタンで1,629 kHzに切り換えることができます。

便利な機能3 時計・カレンダーを表示・調節する

本機の電源がOFFのときに時計を表示させたり、時計を調節することができます。

電源OFF時に時計を表示する

オフクロック表示

電源をOFFにしてから、6のボタンを押してデモモードをOFFにしたときに、時計・カレンダーを表示することができます。

1 "CLK" を表示する

NEXTボタンを押す

"CLK" が表示されるまで、NEXTボタンを押して切り換える。



2 時計・カレンダーモードにする

CLKボタンを押す

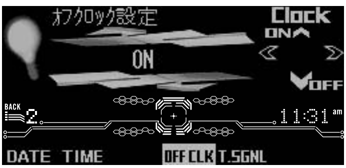
3 オフクロックモードにする

OFF CLKボタンを押す

4 オフクロックを ON にする

OFF CLKボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



5 時計・カレンダーモードを解除する

BANDボタンを押す

メモ

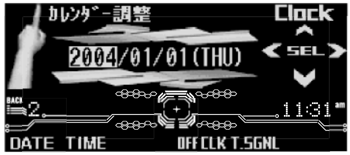
- 時計・カレンダーモードは、約60秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

日付を設定する

1 時計・カレンダーモードにする

2 カレンダー調整モードにする

DATEボタンを押す



3 日付の設定をする

■ 年、月、または日を選ぶ

◄または►ボタンを押す

押すごとに年、月、または日が切り換わります。

■ 日付を合わせる

▲または▼ボタンを押す

▲：日付を進めるとき
▼：日付を戻すとき

メモ

- オフクロックONの状態で電源をOFFにしてから、フィーチャーデモをOFFにすると、カレンダーを表示することができます。
- 年は2004年～2053年の範囲で設定できます。

時計を設定する

1 時計・カレンダーモードにする

2 時計調整モードにする

TIME ボタンを押す



3 時計の設定をする

■ 時または分を選ぶ

◄ または ► ボタンを押す

押すごとに時と分が切り換わります。

■ 時刻を合わせる

▲ または ▼ ボタンを押す

▲：時刻を進めるとき
▼：時刻を戻すとき

分を調節すると、0 秒からカウントが始まります。

時刻を時報に合わせる

1 時計・カレンダーモードにする

2 時計調整モードにする

TIME ボタンを押す

3 時刻を時報に合わせる

JUST ボタンを押す

分が“ 00 ”になります。

例） 10：00～10：29 → 10：00
10：30～10：59 → 11：00

タイムシグナルを表示する

1 時計・カレンダーモードにする

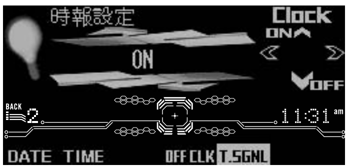
2 時報設定モードにする

T.SGNL ボタンを押す

3 時報（タイムシグナル）をONにする

T.SGNL ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFF します。



メモ

● タイムシグナル表示は、音とアニメーションによる時報機能です。（電源ON 時の機能です。）

便利な機能と初期設定

便利な機能 4 カスタムメニューの切り換えかた

表示画面を選択したりディマーを設定したりするときは、カスタムメニューを切り換えて操作します。

1 “ C. MENU ” を表示する

NEXT ボタンを押す

“ C. MENU ” が表示されるまで、NEXT ボタンを押して切り換える。

TI PAUSE CLK C.MENU

2 カスタムメニューにする

C. MENU ボタンを押す

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

D.FORM BRGHT DMMER FLASH PTRN TYPE

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 カスタムメニューを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

- カスタムメニューは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。
- “ PTRN ” は、表示画面の “ FORM 2 ” 専用の機能です。“ FORM 1 ” または “ FORM 3 ” を選択しているときは表示されません。
- “ TYPE ” は、表示画面の “ FORM 3 ” 専用の機能です。“ FORM 1 ” または “ FORM 2 ” を選択しているときは表示されません。
- “ FLASH ” は、表示画面の “ FORM 1 ” と “ FORM 2 ” 専用の機能です。“ FORM 3 ” を選択しているときは表示されません。

便利な機能 5 基本画面を選ぶ

基本画面選択

本機の基本画面には、FORM 1、FORM 2、および FORM 3 の 3 種類があり、お好みに合わせて選ぶことができます。

1 基本画面選択モードにする

C. MENU ボタン、D. FORM ボタンの順に押す

2 表示を選ぶ

お好みの表示のボタンを押す

ボタン	表示
FORM1	FORM 1
FORM2	FORM 2
FORM3	FORM 3

便利な機能 6 ディスプレイの明るさを調節する

ブライト

ディスプレイの明るさを調節することができます。

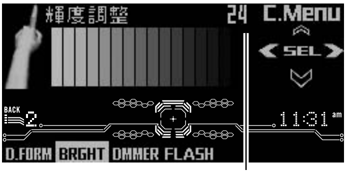
1 輝度調整モードにする

C. MENU ボタン、BRGHT ボタンの順に押す

2 明るさを調節する

◄ または ► ボタンを押す

►：明るくしたいとき
◄：暗くしたいとき



0～28の範囲で調節できます。

便利な機能 7 夜間のディスプレイの明るさを切り換える

ディマー設定

夜間、周囲が暗くなったときにディスプレイがまぶしくならないように、車のライトをONにすると、ディスプレイが暗くなります。

1 ディマー設定モードにする

C. MENU ボタン、DMMER ボタンの順に押す

2 ディマーの設定を ON にする

DMMERボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFF します。



メモ

● 車のライトをONにしてディマーが働いているときでも、輝度調整モード（☞ **便利な機能❻**）でディスプレイの明るさを“0”に調節していると、ディスプレイの明るさは変わりません。

便利な機能と初期設定

便利な機能 8 ディスプレイ演出の種類を選ぶ

サーキットフラッシュ選択

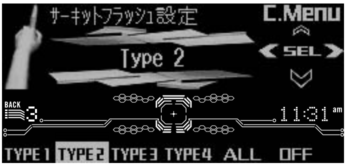
ディスプレイ演出の種類を選ぶことができます。

1 サーキットフラッシュ設定モードにする

C. MENU ボタン、FLASH ボタンの順に押す

2 演出の種類を選ぶ

TYPE1～TYPE4、ALL の中から、お好みの種類のボタンを押す



メモ

- “ ALL ” を選んだときは、“ TYPE1 ” ～ “ TYPE4 ” を順番に表示します。
- “ OFF ” を選ぶと、ディスプレイ演出を OFF にすることができます。

便利な機能 9 背景のパターンを選ぶ

壁紙選択

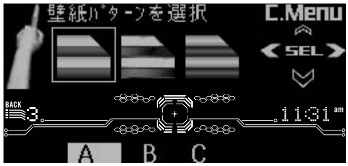
基本画面に “ FORM 2 ” を選んでいる場合、背景のパターンを選ぶことができます。

1 壁紙選択モードにする

C. MENU ボタン、PTRN ボタンの順に押す

2 壁紙を選ぶ

A、B、C ボタンの中からお好みの壁紙のボタンを押す



便利な機能 10

表示のタイプを選ぶ

表示タイプ選択

基本画面に“ FORM 3 ”を選んでいる場合、表示のタイプを選ぶことができます。

1 タイプ設定モードにする

C. MENU ボタン、TYPE ボタンの順に押す

2 タイプを選ぶ

A、B、C ボタンの中からお好みのタイプのボタンを押す



便利な機能 11 エンタテインメントを表示させる

音楽などを聞いているときに、ディスプレイの表示をエンタテインメント表示に切り換えることで、いろいろな表示を楽しむことができます。

エンタテインメントメニューの切り換えかた

1 エンタテインメントメニューにする

ENT ボタンを押す

2 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

MOVIE S/A ASL BG OFF

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

3 エンタテインメントメニューを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

- エンタテインメントメニューは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。
- " BG " は、基本画面の " FORM 1 " 専用の機能です。" FORM 2 " または " FORM 3 " を選択しているときは、表示されません。
- " FORM 3 " を選択しているときは、" BG " が " BGV " に変わります。
- " FORM 3 " を選択しているときは、、" MOVIE "、" S/A "、および " ASL " は表示されません。

ムービースクリーンを表示する

1 ムービースクリーン選択モードにする

ENT ボタン、MOVIE ボタンの順に押す

2 ムービースクリーンを選ぶ

お好みのムービーのボタンを押す

押したボタンのムービースクリーンが表示されます。

ボタン	ムービースクリーン
MOVIE1	コンチネンタル
MOVIE2	ノクターン
MOVIE3	コーリング
ALL	MOVIE1～3を順番に表示

レベルインジケーターを表示する

1 レベルインジケーター選択モードにする

ENT ボタン、S/A ボタンの順に押す

2 レベルインジケーターを選ぶ

S/A1～S/A3 の中から、お好みのレベルインジケーターのボタンを押す

押したボタンのレベルインジケーターが表示されます。

ASL レベルインジケーターを表示する

1 ASL レベルインジケーターを表示する

ENT ボタン、ASL ボタンの順に押す

メモ

● ASL については (☞ **音の調節⑲ 89 ページ**)

バックグラウンドビジュアルを表示する

1 バックグラウンドビジュアル選択モードにする

ENT ボタン、BG ボタン、BGV ボタンの順に押す

2 バックグラウンドビジュアルを選ぶ

BGV1 〜 BGV5 の中から、お好みのバックグラウンドビジュアルのボタンを押す

押したボタンのバックグラウンドビジュアルが表示されます。

メモ

●“ FORM 3 ” を選択しているときは、ENT ボタン、BGV ボタンの順に押すことにより、バックグラウンドビジュアルを表示することができます。

バックグラウンドピクチャーを表示する

1 バックグラウンドピクチャー選択モードにする

ENT ボタン、BG ボタン、BGP ボタンの順に押す

2 “ BGP1 ”〜“ BGP6 ”と“ BGP7 ”〜“ BGP12 ”を切り換える

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに、“ BGP1 ” 〜 “ BGP6 ” と “ BGP7 ” 〜 “ BGP12 ” が切り換わります。



3 バックグラウンドピクチャーを選ぶ

BGP1 〜 BGP12 の中から、お好みのバックグラウンドピクチャーのボタンを押す

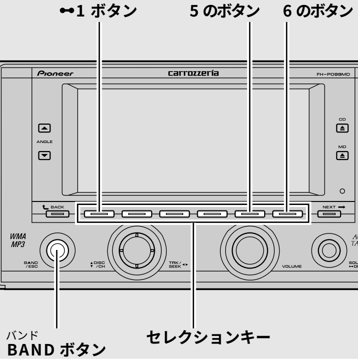
押したボタンのバックグラウンドピクチャーが表示されます。

エンタテインメント表示を解除する

1 エンタテインメント表示を解除する

ENT ボタン、OFF ボタンの順に押す

現在のエンタテインメント表示が OFF になります。



便利な機能 12 初期設定モードの切り換えかた

外部機器やデモモードを設定するときは、初期設定モードを切り換えて操作します。

1 電源を OFF にする

SOURCE ボタンを 1 秒以上押す
(☞ ここだけで❶ 18 ページ)

2 初期設定モードにする

電源が OFF のときに、⊷1 ボタンを 2 秒以上押す

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

REV F.DEMO AUX D.ATT MUTE.S SCROLL

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

初期設定モードが解除され、電源が OFF になります。

リモコンの場合

電源が OFF のときに、FUNCTION ボタンを 2 秒以上押してから、FUNCTION ボタンを押す

FUNCTION ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

REV → F.DEMO → AUX → D.ATT → MUTE.S → SCROLL → REV に戻る

便利な機能 13 リバースモードをON/OFFする

リバースモードをON/OFFすることができます。

1 画面反転機能設定モードにする

電源がOFFのときに、⊶1ボタンを2秒以上押す

2 画面反転機能設定をONにする

REVボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



3 初期設定モードを解除する

BANDボタンを押す

初期設定モードが解除され、電源がOFFになります。

メモ

● リバースモードは、本機がOFFのときに、5のボタンを押すことでもON/OFFすることができます。

便利な機能 14 フィーチャーデモをON/OFFする

フィーチャーデモをON/OFFすることができます。

1 デモンストレーション設定モードにする

電源がOFFのときに、⊶1ボタンを2秒以上押してから、F.DEMOボタンを押す

2 デモンストレーション設定をONにする

F.DEMOボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



3 初期設定モードを解除する

BANDボタンを押す

初期設定モードが解除され、電源がOFFになります。

メモ

● フィーチャーデモは、本機がOFFのときに、6のボタンを押すことでもON/OFFすることができます。

便利な機能15 外部機器の音声を聞く

AUX (外部機器) の設定

本機にDATやVTRなどの外部機器を接続すると、その音声を聞くことができます。

外部機器との接続について

別売のRCA/IP-BUSインターコネクター「CD-RB20」または「CD-RB10」を使うと、RCA出力のあるDATやVTRを、外部機器として本機に接続することができます。

詳しくは、RCA/IP-BUSインターコネクターの説明書をご覧ください。

1 AUX (外部機器) モードにする

電源がOFFのときに、⊷ 1 ボタンを2秒以上押してから、AUXボタンを押す

2 AUX (外部機器) の設定をONにする

AUXボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



3 初期設定モードを解除する

BANDボタンを押す

初期設定モードが解除され、電源がOFFになります。

4 ソースをAUXにする

SOURCEボタンを押して選ぶ
(☞ ここだけで❶ 18ページ)

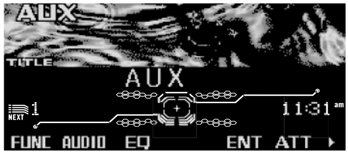
ソースをAUXに切り換えると、外部機器の音声が出力されます。

便利な機能16 外部機器の名称を入力する

接続した外部機器の名称を入力することができます。

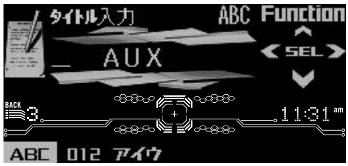
1 ソースをAUXにする

SOURCEボタンを押して選ぶ
(☞ ここだけで❶ 18ページ)



2 外部機器の名称入力モードにする

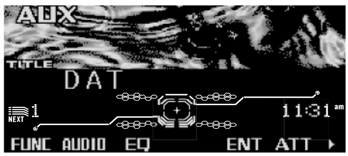
FUNCボタン、TTLinボタンの順に押す



3 外部機器の名称を入力し、記憶させる (☞ マルチCD⑩ 62ページ)

CDタイトル入力の手順3〜6を参照し、同様の操作で外部機器の名称を記憶させてください。

例) " DAT " と入力した場合



" AUX " の表示のかわりに、入力した名称が表示されます。

メモ

- TTLinボタンを押さなくても、文字を入力することができます。ただし、アルファベットの小文字やカナ文字などを入力することはできません。

便利な機能 17 音の歪みを補正する

デジタルアッテネーター

イコライザーカーブの調節 **(☞ 音の調節⑮ 86ページ)** による音の歪みをなくすことができます。

デジタルアッテネーターについて

イコライザーカーブの調節 **(☞ 音の調節⑮ 86ページ)** でレベルを高く設定した周波数の音域が歪むことがあります。イコライザーカーブの調節で音が歪んだように感じたときは、デジタルアッテネーターの設定をLOWに切り換えてください。

1 デジタルアッテネーター設定モードにする

電源がOFFのときに、⊷1ボタンを2秒以上押してから、D.ATTボタンを押す

2 設定を選ぶ

選びたい設定のボタンを押す

ボタン	設定
LOW	Low
HIGH	High



3 初期設定モードを解除する

BANDボタンを押す

初期設定モードが解除され、電源がOFFになります。

便利な機能 18 ミュート / アッテネートを切り換える

ミュート / アッテネート設定

ミュート機能のある製品からミュート信号を受け取ったときに、本機の音声をミュートするか、アッテネートするかを選ぶことができます。

ミュート / アッテネート機能について

ミュート機能のある製品 (パイオニア製ナビゲーションシステムなど) と本機を組み合わせると、その製品からミュート信号を受け取っているときだけ、ミュートまたはアッテネート機能が働きます。ミュート信号を受け取っているときの各設定の音量は、次のようになります。

- TEL mute ：音量“ 0 ”
- 10 dB ATT ：もとの音量の1/3
- 20 dB ATT ：もとの音量の1/10

ミュートまたはアッテネート機能が解除されると、自動的にもとの音量に戻ります。

1 ミュート設定モードにする

電源がOFFのときに、⊷1ボタンを2秒以上押してから、MUTE.Sボタンを押す

2 設定を選ぶ

MUTE.Sボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

TEL mute → 10 dB ATT → 20 dB ATT → TEL muteに戻る



3 初期設定モードを解除する

BANDボタンを押す

初期設定モードが解除され、電源がOFFになります。

便利な機能19 タイトルのスクロールのしかたを切り換える

連続スクロール設定

連続スクロール機能をONにすると、CDのタイトルなどを繰り返しスクロールさせることができます。一度だけスクロールさせたいときは、この機能をOFFにしてください。(初期設定ではOFFになっています。)

1 連続スクロール設定モードにする

電源がOFFのときに、⊷1ボタンを2秒以上押してから、SCROLLボタンを押す(☞ 便利な機能⑫ 104ページ)

2 連続スクロールの設定をONにする

SCROLLボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



3 初期設定モードを解除する

BANDボタンを押す

初期設定モードが解除され、電源がOFFになります。

便利な機能20 よく使う機能を直接操作する

ダイレクトファンクション

リモコンのDFボタンを押すと、よく使う機能をソースごとに直接操作することができます。内蔵CD・WMA/MP3/WAV・内蔵MD・マルチCD・DVDでポーズ、ラジオでBSM、テレビでBSSMを操作することができます。

内蔵CD・WMA/MP3/WAV・内蔵MD・マルチCD・DVDのとき

1 再生を一時停止する

リモコンのDFボタンを押す
(☞ はじめに❶ 9ページ)

ボタンを押すごとに機能がON/OFFします。
(☞ 内蔵CD❼ 34ページ、☞ WMA/MP3/WAV❼ 42ページ、☞ 内蔵MD❽ 51ページ、マルチCD❾ 61ページ、DVD❷ 71ページ)

ラジオのとき

1 BSMを始める

リモコンのDFボタンを2秒以上押す
(☞ はじめに❶ 9ページ)

BSMが始まります。
(☞ ラジオ❹ 54ページ)

メモ

● BSM中にリモコンのDFボタンを押すことで、BSMを途中解除することもできます。

テレビのとき

1 BSSMを始める

リモコンのDFボタンを2秒以上押す
(☞ はじめに❶ 9ページ)

BSSMが始まります。
(☞ テレビの取扱説明書)

メモ

● BSSM中にリモコンのDFボタンを押すことで、BSSMを途中解除することもできます。

その他 1 CDの正しい使いかた

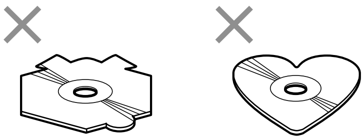
使用できるCDについて

● 下記マークの付いているコンパクトディスク（光学式デジタルオーディオディスク）をご使用ください。

● 本機は音楽CD規格に準拠して設計されています。コピーコントロールCDなどのCD規格外ディスクの動作保証及び性能保証は致しかねます。

● ひび、キズ、そりのあるCDは使用しないでください。

● 特殊形状のディスクは、使用しないでください。故障の原因になります。



● 音楽用CDレコーダーまたはパソコンで記録したCD-R/CD-RWディスクは、ディスクの特性やキズ・汚れ、または本機内部のレンズの汚れ・露などにより、本機では再生できない場合があります。

● パソコンで記録したディスクは、アプリケーションの設定および環境によって再生できないことがあります。（詳細は、アプリケーションの発売元にお問い合わせください。）

● 直射日光や高温など、車内での保管状況により、CD-R/CD-RWディスクは再生できなくなる場合があります。

● CD-R/CD-RWディスクに記録されているタイトルなどの文字情報は、本機では表示されない場合があります。（音楽データ（CD-DA）再生時）

● 本機はCD-R/CD-RWディスクのトラックスキップ機能に対応しています。スキップ指定された曲を飛ばして再生します。（音楽データ（CD-DA）再生時）

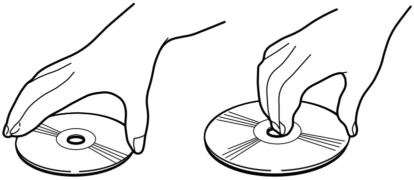
● ファイナライズされていないCD-R/CD-RWディスクには対応していません。

● CD-RWディスクは、ディスクを挿入してから再生が始まるまで、通常のCDやCD-Rディスクより時間がかかります。

● CD-R/CD-RWディスクの取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

取り扱い上のご注意

● CD は、下図のように、信号記録面 (虹色に光っている面) をさわらないように持ってください。

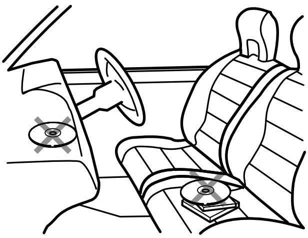


● CD にキズを付けないでください。

● CD にシールなどを貼り付けないでください。

保管上のご注意

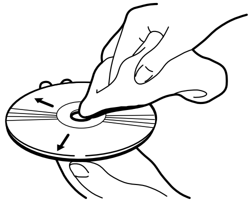
● 直射日光の当るところや高温になるところには、CD を保管しないでください。



● CDがそらないように、必ずケースに入れて保管してください。

お手入れについて

● CD が汚れたときは、柔らかいきれいな布でCD の内周から外周方向へ軽くふいてください。



● アナログ式レコード用のクリーナー、静電気防止剤などは使用しないでください。またベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。

CD 再生の環境について

● 走行中、振動のショックで音飛びを起こすことがあります。

● 寒いとき、ヒーターを入れた直後に CD 再生を始めると、本機内部の光学系レンズやCDに露が生じて、正常に再生できないことがあります。
このようなときは、1 時間ほど放置して自然に露が取れるのをお待ちください。CDに付いた露は柔らかい布でふいてください。

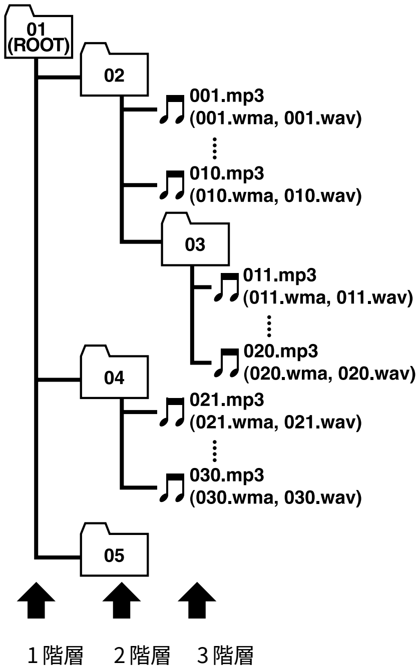
メモ

● 製品設計上配慮していますが、機構上あるいは使用環境・ディスクの取り扱いなどにより、ディスク面に実使用上支障のない程度のキズが付くことがあります。これは、製品の故障ではありません。一般的な消耗としてご理解ください。

その他2 WMA/MP3/WAVファイルについて

フォルダーとWMA/MP3/WAVファイルについて

● WMA/MP3/WAVファイルを収録したCD-R/CD-RW/CD-ROMのイメージは下図のようになります。



● 本機はWMA/MP3/WAVファイルが記録されたCD-R/CD-RW/CD-ROMの再生に対応しています。ISO9660のレベル1、レベル2、および拡張フォーマット（Joliet、Romeo）に準拠して記録されたディスクが再生可能です。**（☞ その他❼ 122ページ）**

● 本機はマルチセッション **（☞ その他❼ 122ページ）** 方式で記録したディスクの再生に対応しています。

● パケットライト **（☞ その他❼ 122ページ）** には対応していません。

● m3u **（☞ その他❼ 123ページ）** のプレイリストには対応していません。

● MP3i（MP3 interactive）フォーマット、およびMP3 PROフォーマットには対応していません。

● ファイル名の最大表示文字数は、拡張子（.mp3、.wma、.wav）を含めて64文字です。また、フォルダー名の最大表示文字数は64文字です。

● 拡張フォーマット（Romeo）**（☞ その他❼ 122ページ）** に準拠して記録されたファイルの場合、先頭から64文字までの表示に対応しています。

● 再生などの操作でフォルダーが選択される順番は、ライティングソフトで書き込まれた順番になります。ただし、ライティングソフトによっては、再生の順番を設定できるものもあります。

● 曲間（トラック間）にブランクがないCDを、WMA/MP3/WAVファイルとしてCD-R/CD-RW/CD-ROMに記録して再生した場合、曲間が音飛びしたように聞こえます。

メモ

● フォルダー番号は本機が割り当てます。お客様が割り当てることはできません。
● CD-R、CD-RW、CD-EXTRA、MIXED-MODE CDディスクに、WMA/MP3/WAVファイルと音楽データ（CD-DA）が混在しているときは、WMA/MP3/WAVファイルと、音楽データ（CD-DA）を切り換えることができます **（☞ ここだけで❸ 23ページ）**。WMA/MP3/WAVファイルと、音楽データ（CD-DA）を切り換えた場合、再生は一番先頭の曲から始まります。
● WMA/MP3/WAVファイルを含まないフォルダーは認識しません。（フォルダー番号を表示せず、スキップします。）
● 8階層までのWMA/MP3/WAVファイルの再生に対応しています。ただし、多くの階層を持つディスクは、再生が始まるまでに時間がかかります。ディスク作成時には、階層を2つ以下にすることをおすすめします。
● ディスクに含まれるフォルダーの合計が99個まで再生可能です。

WMAとは？

●「Windows Media™ Audio」の略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMAデータは、Windows Media Player Ver.7以降を使用してエンコードすることができます。**(☞ その他❼ 123ページ)**

ご注意

- WMAファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
- WMAファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。

再生できるWMAファイルについて

ご注意

- WMAファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.wma) を付けてください。
- 本機は、拡張子 (.wma) が付いているファイルをWMAファイルとして再生します。**雑音や故障の原因となりますので、WMAファイル以外には拡張子 (.wma) を付けないでください。**
- 本機では、Windows Media Player Ver.7/7.1/8/9を使用してエンコードしたWMAファイルを再生することができます。

- 再生可能なWMAファイルのサンプリング周波数は32/44.1/48 kHzです。
- 一般的にWMAファイルは、ビットレート**(☞ その他❼ 122ページ)** が高いほど音質は良くなります。本機は、CBR（固定ビットレート）では48kbps～320kbps、VBR (可変ビットレート）では48kbps～384kbpsのビットレートで記録されたWMAファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、できるだけ高いビットレートで記録されたディスクの使用を推奨します。
- デジタル著作権保護（DRM) で保護されたファイルを再生したときは、“ TRK SKIPPED ” と表示され、そのファイルの再生がスキップされます。
- ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権保護（DRM）で保護されている場合は、“ PROTECT ” と表示され、そのディスクは再生できません。
- Windows Media Audio 9 Professional (5.1ch)、Windows Media Audio 9 Lossless、およびWindows Media Audio 9 Voiceには対応していません。

その他2 WMA/MP3/WAVファイルについて（つづき）

MP3とは？

● MPEG Audio Layer 3の略称で、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。
(☞ その他❼ 123ページ)

再生できるMP3ファイルについて

ご注意
- MP3ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.mp3) を付けてください。
- 本機は、拡張子 (.mp3) が付いているファイルをMP3ファイルとして再生します。**雑音や故障の原因となりますので、MP3ファイル以外には拡張子 (.mp3) を付けないでください。**

● ID3 tag **(☞ その他❼ 122ページ)** のVer1.0/1.1/2.2/2.3/2.4のアルバム名 (ALBUM TITLEとして表示)、曲名 (TRCK TITLEとして表示)、およびアーティスト名 (ARTIST NAMEとして表示) の表示に対応しています。
なお、ID3 tagのVer1.XとVer 2.Xが混在している場合は、Ver 2.Xが優先されます。

● サンプリング周波数が32/44.1/48 kHzのMP3ファイルを再生する場合のみ、エンファシスに対応します。(なお、再生可能なサンプリング周波数は16/22.05/24/32/44.1/48 kHzです。)

● 一般的にMP3ファイルは、ビットレート **(☞ その他❼ 122ページ)** が高いほど音質は良くなります。本機は、8kbps～320kbpsのビットレートで記録されたMP3ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、128kbps以上のビットレートで記録されたディスクの使用を推奨します。

WAVとは？

● Waveformの略で、Windows® での標準音声フォーマットです。
(☞ その他❼ 123ページ)

再生できるWAVファイルについて

ご注意
- WAVファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.wav) を付けてください。
- 本機は、拡張子 (.wav) が付いているファイルをWAVファイルとして再生します。**雑音や故障の原因となりますので、WAVファイル以外には拡張子 (.wav) を付けないでください。**

● 本機は、LPCM形式およびMS ADPCM形式でエンコードされたWAVファイルの再生に対応しています。

● 本機は、LPCM形式では16/22.05/27/32/44.1/48 kHz、MS ADPCM形式では22.05/44.1 kHzのサンプリング周波数で記録されたWAVファイルの再生に対応しています。

● 表示されるサンプリング周波数の桁は、すべてではないことがあります。

● 一般的にWAVファイルは、量子化ビット数 **(☞ その他❼ 122ページ)** が大きいほど音質は良くなります。本機は、LPCMでは8/16 bit、MS ADPCMでは4 bitの量子化ビット数で記録されたWAVファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、できるだけ大きい量子化ビット数で記録されたディスクの使用を推奨します。

その他3 MDの正しい使いかた

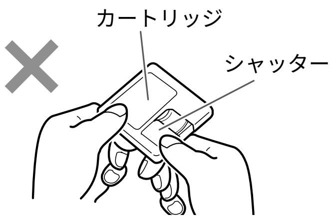
使用できるMDについて

● 下記マークの付いているMD（ミニディスク）をご使用ください。

● 音楽用以外のMDは使用しないでください。故障の原因になります。

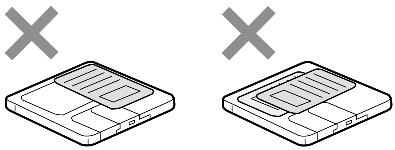
取り扱い上のご注意

● MDのシャッターを手であけないでください。無理にあけるとこわれることがあります。

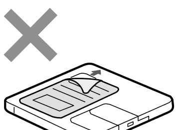


ラベルについて

● MDに付属のラベルは、必ず指定の位置に貼ってください。指定以外の位置に貼ったり、2枚重ねて貼ったりすると、MDが取り出せなくなることがあります。

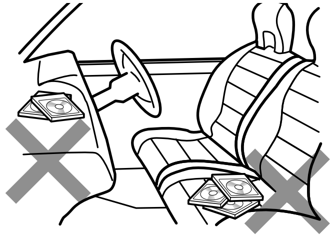


● ラベルがめくれたり、浮いたりしたMDは使用しないでください。ラベルが引っかかり、MDが取り出せなくなります。このようなMDは新しいラベルに貼り換えてからお使いください。



保管上のご注意

● MDは、直射日光の当るところや高温になるところには、保管しないでください。



お手入れについて

● MDのカートリッジ表面が汚れたときは、柔らかいきれいな布で軽く拭いてください。

● MDにベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。



● MD用クリーニングディスクを使用するときは、クリーニングディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。
クリーニングディスクによっては製品の故障の原因になる場合があります。

寒いときの結露について

● 寒いとき、ヒーターを入れた直後にMDの再生を始めると、本機内部の光学系レンズやMDに露が付いて、正常に再生できないことがあります。
このようなときは、1時間ほど放置して自然に露が取れるのをお待ちください。MDのカートリッジ表面に付いた露は柔らかい布で拭いてください。

保証書とアフターサービス

保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。
保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より１年間です。

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低６年間保有しています。(性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

その他5 故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら
修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。

→ **チェックしても直らないときは**
本機をリセットしてください。（☞ はじめに❹ 12ページ）

→ **それでも直らないときは**
「保証書とアフターサービス」（☞ その他❹ 117ページ）をお読みになり、修理を依頼してください。

共通項目

症状	原因	処置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクターが正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているかどうか、もう一度確認してください。**（☞ 取付説明書）**
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズと同じ容量のものと交換してください。**（☞ 取付説明書）**
音が出ない。 音が小さい。	音量を下げている。	音量を上げてください。**（☞ ここだけで❷〜❻ 20〜29ページ）**
	アッテネーターがONになっている。	アッテネーターを解除してください。**（☞ 便利な機能❶ 94ページ）**
	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。**（☞ 音の調節❺ 76ページ）**
前または後ろのスピーカーから音が出ない。	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。**（☞ 音の調節❺ 76ページ）**
左または右のスピーカーから音が出ない。	左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。**（☞ 音の調節❺ 76ページ）**
ディスプレイが反転表示する。	リバースモードがONになっている。	リバースモードを解除してください。**（☞ 便利な機能⓭ 105ページ）**

ラジオ

症状	原因	処置
ラジオの受信中、“ジージー、ザーザー”という雑音が多い。	放送局の周波数が合っていない。	周波数を正しく合わせてください。**（☞ ここだけで❺ 27ページ）**
	放送局の電波が弱い。	他の放送局を選局してみてください。**（☞ ここだけで❺ 27ページ）**
	周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、雑音が少なくなります。
自動選局できない。	放送局の電波が弱い。	手動で選局してください。**（☞ ここだけで❺ 27ページ）**

CD、WMA/MP3/WAV

症状	原因	処置
CD再生中、大きな雑音が出る。 CDの再生が途中で止まる。	CDに大きなキズやそりがある。	他のCDに交換してください。良くなれば、CDの不良です。
	CDが極端に汚れている。	CDの汚れをふき取ってください。 **(☞ その他❶ 111ページ)**
	CDにくもりや水滴が付いている。	CDのくもりや水滴をふき取ってください。 **(☞ その他❶ 111ページ)**
	CDの裏表を逆にしてセットしている。	CDのタイトル面を上にしてセットしてください。**(☞ ここだけで❷ 20ページ)**
CDを再生できない。 CDを取り出せない。	本機がディスクを認識していない。	フロントパネルを開けた状態で、CD EJECTボタンを2秒以上押すと、ディスクを取り出すことができます。 もう一度、入れ直してください。

MD

症状	原因	処置
再生中、大きな雑音が出る。 MDの再生が途中で止まる。	MDが極端に汚れている。	MDを交換してください。
	MDにくもりや水滴が付いている。	
	録音されていないMDを挿入した。	
	MDが正しい方向に挿入されていない。	MDを取り出し、正しい方向に挿入してください。**(☞ ここだけで❹ 24ページ)**

その他 6 こんなメッセージが表示されたら

CD、WMA/MP3/WAVのエラー表示

メッセージ（エラー番号）	原因	処置
「ERROR-11」「ERROR-12」「ERROR-17」「ERROR-30」	CDが汚れている。	CDの汚れをふき取ってください。（☞ その他❶ 111ページ）
	CDにキズやひびがある。	CDを交換してください。
「ERROR-12」「ERROR-17」	CD-R/CD-RWを録音しないまま使用している。	CD-R/CD-RWは録音してからお使いください。
「ERROR-22」「ERROR-23」	再生できないフォーマットのCD-ROMを挿入した。	CDを交換してください。
「ERROR-10」「ERROR-11」「ERROR-12」「ERROR-17」「ERROR-30」「ERROR-50」「ERROR-A0」	電気系、機構系の故障が考えられる。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、CD再生を一度やめてから、もう一度CD再生にしてください。
「ERROR-44」	すべての曲がトラックスキップ設定されている。	CDを交換してください。
「No audio」	何も録音されていないCD-ROMを挿入した。	WMA/MP3/WAVファイルの記録されているCD-ROMと交換してください。
「TRK SKIPPED」	デジタル著作権保護（DRM）で保護されたWMAファイルを再生した。	デジタル著作権保護（DRM）で保護されていないファイルを再生してください。
「PROTECT」	ディスク内の全てのファイルがデジタル著作権保護（DRM）で保護されている。	CDを交換してください。

メモ

- マルチCD再生中に、上記以外のエラーメッセージが表示されたときは、マルチCDの取扱説明書をご覧ください。

オートイコライジングのエラー表示

メッセージ	原因	処置
「マイクを確認下さい」	マイクが接続されていない。	付属のマイクをきちんと差し込んでください。（☞ 音の調節㉒ 92ページ）
「FLスピーカーを確認下さい」「FRスピーカーを確認下さい」「Fスピーカーを確認下さい」「サブウーファーを確認下さい」「RLスピーカーを確認下さい」「RRスピーカーを確認下さい」	スピーカーの計測音がマイクで拾えない。	ソースを切り換えて、スピーカーから音が出るか確認してください。音が出ない場合は、スピーカーリード線の接続を確認してください。（☞ 取付説明書）
		付属のマイクを正しくセットしてください。
		なるべく静かなところに車を停車し、車のエンジン、およびエアコンやヒーターを止めてください。
「騒音が大きすぎます」	周囲の騒音レベルが高すぎる。	なるべく静かなところに車を停車し、車のエンジン、およびエアコンやヒーターを止めてください。
		付属のマイクを正しくセットしてください。
「Auto TA&EQ できません」	3-wayネットワークモード時にオートイコライジングを実行した。	3-wayネットワークモード時は、オートイコライジングを実行することはできません。

MDのエラー表示

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「ERROR」	MDが何らかの原因で再生しない。	他のMDと交換してください。
		リセットボタンを押してください。 **(☞ はじめに❹ 12ページ)**
「ERROR-01」「ERROR-11」 「ERROR-12」「ERROR-17」 「ERROR-30」「ERROR-A0」	電気系、機構系の故障が考えられる。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、MD再生を一度やめてから、もう一度MD再生にしてください。
「ERROR-11」「ERROR-12」 「ERROR-17」「ERROR-30」	MDが汚れている。	他のMDと交換してください。
	MDにキズやひびがある。	
「ERROR-20」「ERROR-21」	振動などが原因で曲の情報を読み取れなかった。	MDを取り出し、もう一度入れ直してください。それでも同じメッセージが表示される場合は、他のMDと交換してください。
	MDに異常 (損傷している、TOCが入っていないなど) がある。	
「ERROR-22」「ERROR-24」	MDに異常 (損傷している、TOCが入っていないなど) がある。	他のMDと交換してください。
「ERROR-23」	音楽以外の情報が記録されたMDを挿入した。	音楽が録音されたMDに交換してください。
「ERROR-A1」	電気系、機構系の故障が考えられる。	MD再生を一度やめて、リセットボタンを押し **(☞ はじめに❹ 12ページ)**、もう一度MD再生にしてください。
「Blank MD」	何も録音されていないMDを挿入した。	他のMDと交換してください。
「TEMP」	本機の内部温度に異常がある。	本機が正常に動作する温度になるまでお待ちください。

TOCについて

● TOC (Table Of Contents) とは、CDやMD、DATなどに収録されている曲数、演奏時間、タイトルなどの音声信号以外の情報のことです。

その他7 用語解説

パケットライト

フロッピーディスクやハードディスクと同じように、必要なファイルを必要な時点で、CD-Rなどに書き込む記録方式の総称です。

ビットレート

1秒当たりの情報量を表し、単位はbps (bit per second) です。この数字が大きいほど、音楽を再現するために多くの情報を持つことになるため、同じ符号化方式 (MP3など) での比較では、一般的に数字が大きい方が良い音となります。（MP3とWMAのように、異なる符号化方式の場合、単純な比較はできません。）

マルチセッション

マルチセッションは、データの追加ができる記録方式です。CD-ROM、CD-R、およびCD-RWにデータを記録するとき、その記録の始めから終わりまでをひとまとめにした単位をセッションといいます。マルチセッションとは、1枚のディスクに2つ以上のセッションデータを記録する方法のことです。

リニアPCM (LPCM)

音楽CDに用いられている信号記録方式で、「Linear Pulse Code Modulation」の略です。音楽CDは、44.1 kHz/16 bitで記録されています。

量子化ビット数

量子化ビット数は、音質を定義する要素の１つです。この数が大きいほど、音質が良くなります。ただし、量子化ビット数が大きくなるほどデータサイズが大きくなるため、より多くの記憶容量が必要となります。

ID3 tag

曲の関連情報をMP3ファイルの中に埋め込む方式です。埋め込むことのできる情報には、曲名、アーティスト名、アルバム名、ジャンル、製作年、コメントなどがあります。この内容はID3 tag編集機能のあるソフトを利用して自由に編集できます。通常は文字数などに制限がありますが、曲の再生時に情報を見ることができるようになっています。

ISO9660フォーマット

CD-ROMのファイルおよびフォルダーに関する論理フォーマットの国際基準です。ISO9660フォーマットには、次のようなレベルに関する規制があります。

レベル1：

ファイル名は、8.3形式 (名前は半角英文大文字と半角数字、“ _ ” で8文字以下、拡張子は3文字)

レベル2：

ファイル名は、最大31文字 (区切り文字、“ . ” と拡張子を含む) で、各フォルダーの階層は8つ以下

拡張フォーマット

Joliet：

ファイル名は、最大で64文字

Romeo：

ファイル名は、最大で128文字

m3u

プレイリストファイルの拡張子 (.m3u) で、「WINAMP」というソフトで作成したプレイリストに付きます。

MP3 (エムピースリー)

「MPEG Audio Layer3」の略で、ISO (国際標準化機構) のワーキンググループ (MPEG) が定めた音声圧縮の規格です。MP3は、音声データを元のデータの約1/10のサイズに圧縮することができます。

MS ADPCM

「Microsoft adaptive differential pulse code modulation」の略で、米国Microsoft Corporationのマルチメディア・ソフトウェアで使用される信号記録方式です。

VBR (ブイビーアール)

「Variable Bit Rate (可変ビットレート)」の略です。一般的にはCBR (固定ビットレート) が多く使われていますが、音声圧縮では圧縮状況に合わせてビットレートを可変にすることで、音質を優先した圧縮が可能となります。

WAV

「Waveform」の略で、Windows® での標準音声フォーマットです。

WMA (ダブリューエムエー)

「Windows Media™ Audio」の略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMAデータは、Windows Media Player Ver.7以降を使用してエンコードすることができます。

Microsoft、Windows Media、Windowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他 8 おもな仕様

■ オーディオ/DSP部

最大出力：50 W×4
定格出力：22 W×4
(50～15,000 Hz、5 % THD)
負荷インピーダンス：4 Ω
(4～ 8 Ω使用可能)
プリアウト最大出力レベル：2.2 V
出力インピーダンス：1 kΩ
ラウドネスコンター：10 dB (100 Hz)
6.5 dB (10 kHz)
(ボリューム：－30 dB)
イコライザー (13バンドグラフィックイコライザー)：周波数：
50/80/125/200/315/500/800/1.25k/2k/3.15k/5k/8k/12.5k Hz
調整幅：±12 dB (2 dB)
オートイコライザー (スタンダードモードのみ) (13バンドグラフィック)：周波数 (F + R + SW)：
50/80/125/200/315/500/800/1.25k/2k/3.15k/5k/8k/12.5k Hz
調整幅：－12 dB ～+6 dB (2 dB)
ネットワーク (スタンダードモード)
ハイパスフィルター：周波数 (F + R)：
50/63/80/100/125/160/200 Hz
スロープ：
－12、－6、0 (PASS) dB/oct.
調節幅：
－24 dB ～0 dB、Mute (1 dB)
サブウーファー出力：周波数：
50/63/80/100/125/160/200 Hz
スロープ：
－18、－12、－6 dB/oct.
調整幅：
－24 dB ～+6 dB、Mute (1 dB)
位相：NORMAL/REVERSE

■ オーディオ/DSP部 (つづき)

ネットワーク (3ウェイネットワークモード)
HIGH (HPF)：周波数：
1.6/2/2.5/3.15/4/5/6.3/8/10/12.5/16 kHz
スロープ：
－6、－12、－18、－24 dB/oct.
調整幅：
－24 dB ～0 dB、Mute (1 dB)
位相：NORMAL/REVERSE

MID (LPF/HPF)：周波数 (LPF)：
1.6/2/2.5/3.15/4/5/6.3/8/10/12.5/16 kHz
周波数 (HPF)：
31.5/40/50/63/80/100/125/160/200 Hz
スロープ (LPF)：
0 (Pass)、－6、－12、－18、－24 dB/oct.
スロープ (HPF)：
0 (Pass)、－6、－12、－18、－24 dB/oct.
調整幅：
－24 dB ～0 dB、Mute (1 dB)
位相：NORMAL/REVERSE

LOW (LPF)：周波数：
31.5/40/50/63/80/100/125/160/200 Hz
スロープ：
－12、－18、－24、－30、－36 dB/oct.
調整幅：
－24 dB ～+6 dB、Mute (1 dB)
位相：NORMAL/REVERSE

■ AMチューナー部

受信周波数帯域：522～ 1,629 kHz (9 kHz)
実用感度：18 μV (S/N：20 dB)
S / N：65 dB (IHF-A ネットワーク)

■ CDプレーヤー部

形式：コンパクトディスク オーディオシステム
使用ディスク：コンパクトディスク
信号フォーマット：サンプリング周波数：44.1 kHz
量子化ビット数：16ビット直線
周波数特性：5～20,000 Hz (±1 dB)
S/N：100 dB (1 kHz)
(IHF-A ネットワーク)
ダイナミックレンジ：98 dB (1 kHz)
チャンネル数：2 (ステレオ)
MP3デコーディングフォーマット：MPEG-1 & 2 Audio Layer-3
WMAデコーディングフォーマット：Ver. 7、7.1、8、9 (2ch AUDIO)
WAVシグナルフォーマット：Linear-PCM、MS ADPCM

■ MDプレーヤー部

形式：ミニディスクデジタル オーディオシステム
使用ディスク：ミニディスク
信号フォーマット：サンプリング周波数：44.1 kHz
量子化ビット数：16ビット直線
周波数特性：20～20,000 Hz (±1 dB)
S/N：90 dB (1 kHz)
(IHF-A ネットワーク)
ダイナミックレンジ：90 dB (1 kHz)
チャンネル数：2 (ステレオ)

ドルビーラボラトリーズの米国及び外国特許に基づく許諾製品。

■ FMチューナー部

受信周波数帯域：76.1～89.9 MHz
実用感度：8 dBf (0.7 µV/75 Ω、モノラル、S/N：30 dB)
S/N 50 dB 感度：10 dBf
(0.9 µV/75 Ω、モノラル)
S/N：75 dB (IHF-A ネットワーク)
高調波歪率：0.3 %
(65 dBf入力、1 kHz、ステレオ)
0.1 %
(65 dBf入力、1 kHz、モノラル)
周波数特性：30 ～ 15,000 Hz (±3 dB)
ステレオセパレーション：45 dB (65 dBf入力、1 kHz)

■ 共通部

使用電源：DC 14.4 V
(10.8 ～ 15.1 V 使用可能)
アース方式：マイナスアース方式
最大消費電流：10.0 A
外形寸法
(取付寸法)：178 (W) × 100 (H) × 160 (D) mm
(ノーズ寸法)：169 (W) × 94 (H) × 18 (D) mm
質 量：2.5 kg (コードユニット含まず)

■ 付属品

コードユニット：2
取付ネジ類：1式
マイク：1
リモコン：1
リチウム電池 (CR2025)：1
取扱説明書：1
取付説明書：1
安全上のご注意：1
保証書：1
ご相談窓口・修理窓口のご案内：1

メモ

● 上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。

その他 9 DSP調整値記入表

3-way ネットワークモード (NW)

ネットワーク設定

フィルター	L LPF	M HPF	M LPF	H HPF
遮断周波数 (Hz)				
レベル (dB)				
スロープ (dB/oct.)				
位相				

タイムアライメント設定

スピーカーユニット	High Left	High Right	Mid Left	Mid Right	Low Left	Low Right
距離 (cm)						

スタンダードモード (STD)

ネットワーク設定

フィルター	SW1 (SW2)	HPF F	HPF R
遮断周波数 (Hz)			
レベル (dB)			
スロープ (dB/oct.)			
位相		―――	―――

タイムアライメント設定

スピーカーユニット	Front Left	Front Right	Rear Left	Rear Right	Sub.W
距離 (cm)					

イコライザーカーブ設定

Custom2

周波数 (Hz)	50	80	125	200	315	500	800	1.25k	2k	3.15k	5k	8k	12.5k
レベル (dB)													

この説明書の印刷には、植物性
大豆油インキを使用しています。

パイオニア製品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店へお問い合わせください。
なお、修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、① 型名、② ご購入日、③ 故障症状を具体的にご連絡ください。

●ホームページ
商品に関する「よくあるお問い合わせ」FAQのご案内　*http://www.pioneer.co.jp/support/faq/index.html*

<下記窓口へのお問い合わせ時のご注意>
市外局番「0070」で始まる フリーフォン、および「0120」で始まる フリーダイヤル は、PHS、携帯電話などからはご使用になれません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

製品のご購入や取り扱いについてのご相談窓口

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）

受付　月曜～金曜　9：30～17：00、土曜・日曜・祝日　9：30～12：00、13：00～17：00（弊社休業日は除く）

● カーオーディオ／カーナビゲーション製品のご相談窓口	：フリーフォン	**0070-800-8181-11**
	：【一般電話】	**03-5496-8016**
● 家庭用オーディオ/ビジュアル製品	：フリーフォン	**0070-800-8181-22**
（PDP・DVDなど）のご相談窓口	：【一般電話】	**03-5496-2986**
● カタログのご請求窓口	：フリーフォン	**0070-800-8181-33**
カタログ請求とメールサービス登録のご案内		*http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg/index.html*
●ファックス受付	：	**03-3490-5718**

部品のご購入についてのご相談窓口

● 部品（付属品・リモコン・取扱説明書など）のご購入については、部品受注センターへお問い合わせください。

部品受注センター

受付　月曜～金曜　9：30～18：00、土曜・日曜・祝日　9：30～12：00、13：00～17：00（弊社休業日は除く）

電話	：フリーダイヤル	**0120-5-81095**
	：【一般電話】	**0538-43-1161**
ファックス	：フリーダイヤル	**0120-5-81096**

修理についてのご相談窓口

● お買い求めの販売店に修理の依頼ができない場合は、修理受付センターへ（沖縄の方は、沖縄サービスステーションへ）

修理受付センター（沖縄県を除く全国）

受付　月曜～金曜　9：30～20：00、土曜・日曜・祝日　9：30～12：00、13：00～18：00（弊社休業日は除く）

電話	：フリーダイヤル	**0120-5-81028**（ゴー パイオニア）
	：【一般電話】	**03-5496-2023**
ファックス	：フリーダイヤル	**0120-5-81029**

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付　月曜～金曜　9：30～18：00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

電話	：【一般電話】	**098-879-1910**
ファックス	：	**098-879-1352**

この説明書は、再生紙を使用しています。

パイオニア株式会社
〒153-8654　**東京都目黒区目黒** 1-4-1

< KMIZF > < 04A00000 > < CRA3598-A >